

## II. 統計

### 1. 実績の概要

#### (1) 産科部門診療実績

産科部門については今回から診療所、助産所を含む県内全ての分娩取扱医療機関にデータ提供を依頼し、県内の周産期医療の現状を把握できるようにした。

対象医療機関は 11 病院、17 診療所、8 助産所となっている。集計項目に「入院数」も含んでいたが、産科疾患のみ集計、産婦人科疾患を集計等、集計数が医療機関毎に異なっているため下表には掲載していない。

本調査による 2015 年の総分娩数は 10,470 例であった。うち病院が 4,402 例で 42.0%、診療所が 5,830 例で 55.7%、助産所が 238 例で 2.3%となっている。

早産と言われる 37 週未満の分娩は 528 例で全体の 5.0%となっている。また低出生体重児は 909 例で 8.7%となっている。診療所でも 290 例(全低出生体重児のうちの 31.9%)の低出生体重児を扱っている。高年出産と言われる 35 歳以上での出産は 2,746 例であり、全体の 26.2%となっている。

合併症妊娠では子宮筋腫が最も多く 204 例となっている。産科合併症は切迫早産・前期破水が 959 例で最も多い。

(例)

		奈良医大	県総合	近大奈良	天理よろづ	市立奈良	病院 (左5病院除く)	診療所	助産所	合計
分娩様式	総分娩数	943	519	285	490	548	1,617	5,830	238	10,470
	経膈分娩	613	321	188	404	355	1,275	4,949	238	8,343
	帝王切開	330	198	97	86	193	340	881	-	2,125
	うち予定	172	98	54	60	133	182	538	-	1,237
	うち緊急	158	100	43	26	60	158	343	-	888
	帝王切開率 (%)	35.0	38.2	34.0	17.6	35.2	21.0	15.1	-	20.3
分娩週数 (死産児は除く)	35週未満	64	63	8	1	-	1	3	-	140
	35週	33	28	10	7	-	6	15	-	99
	36週	77	43	15	15	17	24	98	-	289
	37週	159	114	34	39	70	186	458	14	1,074
	38週	209	101	78	138	157	329	1,172	35	2,219
	39週	182	81	65	151	137	483	1,800	94	2,993
	40週	203	83	58	101	136	448	1,660	87	2,776
	41週	58	32	17	28	30	118	536	7	826
	42週	4	-	-	1	-	1	29	1	36
42週以上	-	-	-	-	-	-	2	-	2	
出生体重 (死産児は除く)	1,500g未満	39	17	2	-	-	-	-	-	58
	1,500-1,999g	48	44	6	2	2	1	10	-	113
	2,000-2,499g	137	110	31	46	34	99	280	1	738
	2,500g以上	770	374	246	433	511	1,500	5,163	237	9,234

		奈良医大	県総合	近大奈良	天理よろづ	市立奈良	病院 (左5病院除く)	診療所	助産所	合計	
出産時年齢	35歳未満	610	305	154	345	394	1,230	4,118	183	7,339	
	35-39歳	250	163	98	118	121	311	1,158	48	2,267	
	40-44歳	79	50	30	27	33	65	180	7	471	
	45歳以上	4	1	-	-	-	1	2	-	8	
合併症妊娠	子宮筋腫	49	29	14	14	20	17	58	3	204	
	子宮筋腫(核出術後)	5	14	-	-	6	2	7	18	52	
	卵巣嚢腫(腫瘍)	25	9	13	-	-	11	14	26	98	
	子宮頸癌(含円錐切除後)	9	10	-	-	-	8	3	13	43	
	子宮奇形	4	6	-	-	-	2	-	3	15	
	甲状腺機能亢進症	14	6	1	-	5	4	13	1	60	
	甲状腺機能低下症	14	9	6	16	7	10	21	-	67	
	糖尿病(含GDM)	54	27	12	6	19	13	9	-	140	
	喘息	25	11	11	15	11	4	27	-	104	
	慢性腎炎	12	4	-	-	-	1	-	-	17	
	本態性高血圧	12	4	-	-	-	3	1	3	23	
	ITP	-	-	-	2	-	-	-	-	-	2
	自己免疫疾患	10	2	2	6	2	-	-	1	23	
	循環器疾患	14	7	4	2	2	2	2	3	34	
	精神科疾患(含てんかん)	49	24	-	-	3	6	-	16	1	99
	ウイルス性肝炎 (HA, HB, HCなど)	11	7	3	-	-	1	3	13	38	
	消化器疾患 (虫垂炎、潰瘍性大腸炎など)	12	4	11	-	-	3	4	8	42	
	その他	-	-	-	-	-	-	-	1	-	1
産科合併症 (重複あり)	切迫早産・前期破水	109	168	18	152	61	175	268	8	959	
	妊娠高血圧症候群	49	58	15	16	16	37	84	-	275	
	胎内胎児発育制限	31	35	9	10	19	12	41	2	159	
	多胎妊娠	51	34	6	5	1	6	2	-	105	
	前置胎盤	21	7	4	2	-	-	3	3	40	
	産後出血	10	-	-	3	-	12	49	168	242	
	子癇	-	1	-	-	-	-	-	-	1	
	弛緩出血	-	56	-	-	-	-	-	-	56	
	常位胎盤早期剥離	10	8	2	4	1	8	8	-	41	
	HELLP症候群	4	1	1	-	-	-	1	3	10	
	低置胎盤	6	5	1	1	3	7	5	-	28	
	血液型不適合	12	6	1	-	-	6	7	18	50	
	羊水過多	7	-	-	-	-	1	-	11	19	
	羊水過小	9	7	-	-	4	6	1	26	53	
	胎児異常	-	-	-	2	-	1	38	24	65	
その他	-	-	-	-	-	-	-	8	8		
産科手術他	子宮頸管縫縮術	14	6	1	12	6	4	23	-	66	
	卵巣嚢腫(腫瘍)摘出術	3	2	-	-	-	13	7	-	26	
	産道血腫除去術	1	-	-	-	2	3	11	-	17	
	子宮動脈塞栓術	3	3	-	-	1	-	-	-	8	
	子宮摘出術	4	-	-	-	-	1	7	-	12	
	その他	-	-	-	-	-	-	56	5	61	
輸血治療症例	9	33	-	-	1	3	4	14	64		

## (2) 小児・新生児部門診療実績

小児・新生児部門については従来通り、奈良県立医科大学附属病院（奈良医大）、奈良県総合医療センター（県総合）、近畿大学医学部奈良病院（近大奈良）、天理よろづ相談所病院（天理よろづ）、市立奈良病院（市立奈良）からデータ集計を行った。

本調査による2015年の小児・新生児入院数は663例で、うち院内出生が493例、院外出生が170例であった。入院時疾患は呼吸器疾患が最も多く、299例であった。人工呼吸器管理症例数は185例で全体の27.9%であった。早期新生児死亡は6例、後期新生児死亡は2例で、死亡症例の詳細は下表のとおりである。新生児搬送症例数は153例で、搬送疾患名は呼吸器疾患が68例と最も多い。

施設名		奈良医大	県総合	近大奈良	天理よろづ	市立奈良	合計
入院数	院内出生	110	146	65	114	58	493
	院外出生	50	79	31	10	0	170
入院時疾患名	呼吸器疾患	38	146	21	82	12	299
	心・循環器疾患	5	4	6	4	-	19
	消化管疾患	8	6	10	5	5	34
	脳・神経疾患	3	1	2	5	-	11
	外科疾患	-	-	10	-	-	10
	染色体異常 奇形症候群	12	6	3	2	-	23
	感染症	3	13	6	2	2	26
	その他	89	43	38	24	39	233
人工呼吸器管理症例	入院数	160	225	96	124	58	663
	人工呼吸器管理症例数	91	84	10	0	0	185
	人工管理症例率 (%)	56.9	37.3	10.4	0.0	0.0	27.9
早期新生児死亡数		3	2	1	-	-	6
後期新生児死亡数		-	-	2	-	-	2
新生児搬送収容数		45	78	20	10	-	153
新生児搬送疾患名 (重複あり)	呼吸器疾患	18	37	9	4	-	68
	心・循環器疾患	3	3	1	3	-	10
	消化管疾患	11	6	7	2	-	26
	脳神経疾患	2	3	-	-	-	5
	染色体異常 奇形症候群	3	2	3	-	-	8
	感染症	3	6	1	-	-	10
	その他	14	21	2	1	-	38

### 死亡例一覧

	性別	出生週数	出生体重	死亡日齢	病名
奈良医大	女	23週3日	638g	9日	超低出生体重児 脳室内出血 真菌感染症
	男	28週5日	726g	0日	超低出生体重児 気胸
	女	26週5日	985g	119日	超低出生体重児 多発性嚢胞腎
	女	37週2日	1,746g	1日	18トリソミー
	男	36週5日	2,998g	6日	タナトフォリック骨異形成症
県総合	女	39週0日	2,958g	1日	重症新生児仮死
	男	39週1日	2,948g	0日	完全大血管転位症
近大	男	39週	2,662g	8日	先天性横隔膜ヘルニア
	女	36週	1,454g	2日	敗血症
	女	34週	1,446g	109日	-

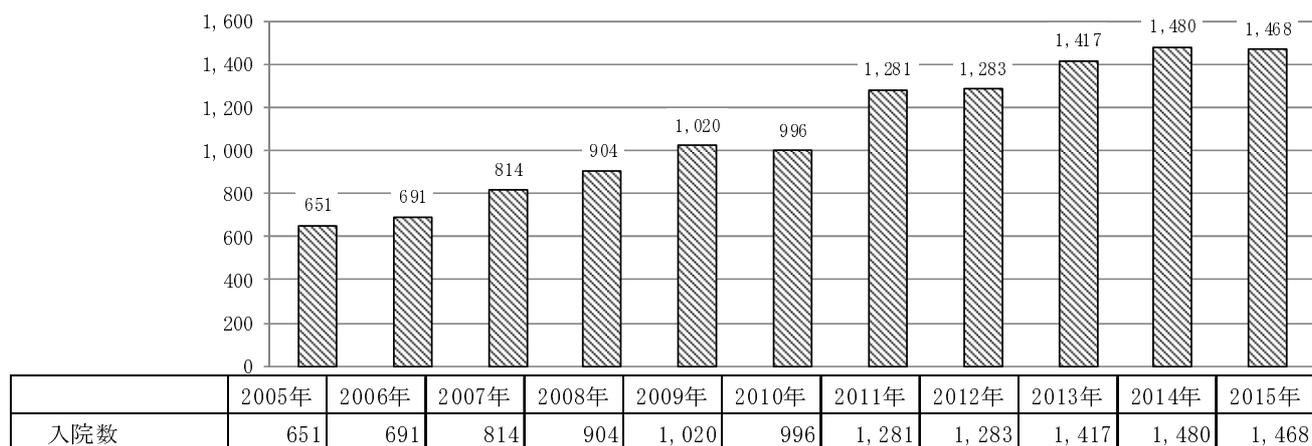
## 2. 奈良県立医科大学附属病院

### (1) 産科部門診療実績

#### ◆ 入院数（例）

2015年の奈良医大附属病院産科病棟への入院患者数は2014年に比べやや減少した。

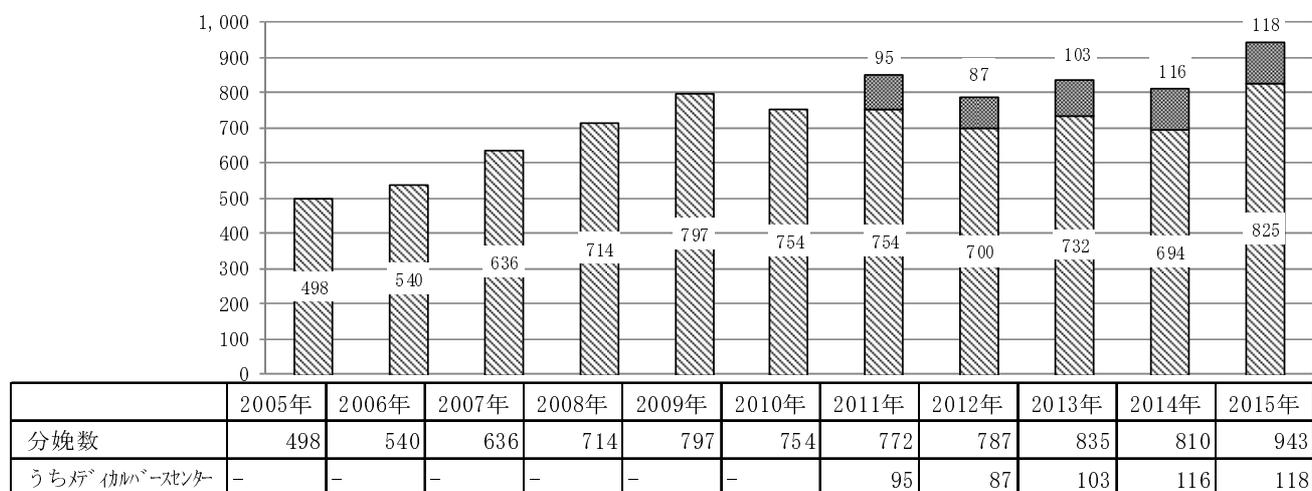
2016年には新病棟への移転が予定されており、医師・助産師・看護師の確保が引き続き急務である。



#### ◆ 分娩数（例）

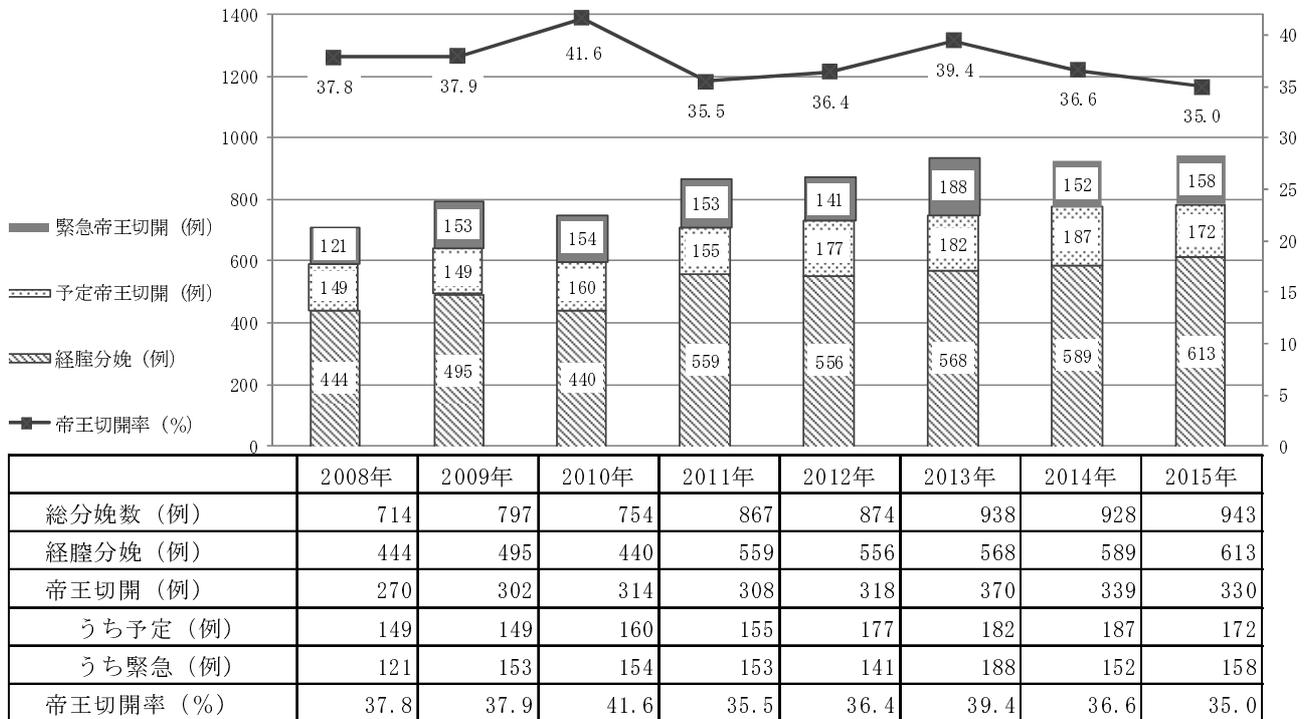
2015年の奈良医大附属病院の分娩数は過去40年間で最高となった。妊婦の高齢化に伴うハイリスク分娩の増加、また地域の産婦人科医による早期からのハイリスク診断の向上が影響している可能性がある。

また、正常分娩を担当するため設置されたメディカルバースセンターでの分娩数は年100件程度で横ばいであり、このことからハイリスク分娩の当院への集中が分娩数増の原因であると考えられる。



◆ 分娩様式

分娩方法については大きな変化はない。40%を超えない帝王切開率は総合周産期センターとしては平均的か、やや低い程度である。帝王切開については麻酔科・中央手術部の絶大なサポートにより、24 時間体制で超緊急帝王切開に至るまでいつでも開始することができている。



◆ 分娩週数 (例 死産児は除く)

分娩週数について、28 週以前が増加したことと、母体合併症例などでの 37 週までの娩出が増えたことが特徴である。前者については県下での担当週数をおおむね 28 週以下は当院、それ以上はできるだけ奈良県総合医療センター (当時は県立奈良病院) と振り分ける方針が定着してきたと言える。

	2008年	2009年	2010年	2011年	2012年	2013年	2014年	2015年
22週	2	2	1	-	-	-	2	3
23週	3	-	-	1	2	2	1	2
24週	2	-	3	2	-	2	3	5
25週	3	3	-	2	1	4	1	1
26週	4	4	6	1	-	1	5	2
27週	4	10	3	1	3	2	3	2
28週	2	3	5	7	5	5	4	8
29週	1	4	8	4	7	4	4	2
30週	5	5	5	6	3	3	3	4
31週	4	11	9	13	5	4	7	6
32週	11	19	10	11	9	16	7	9
33週	12	15	18	9	14	20	11	10
34週	15	23	20	14	21	22	8	10
35週	31	30	38	39	30	33	24	33
36週	65	55	41	59	54	54	41	77
37週	57	56	110	105	115	106	156	159
38週	151	182	150	159	198	246	208	209
39週	145	137	153	191	167	172	202	182
40週	150	162	112	157	172	183	168	203
41週	54	75	57	68	54	45	51	58
42週	3	1	5	3	1	-	-	4
不明	-	-	-	-	2	3	-	5

◆ 出生体重（例 死産児は除く）

出生体重について、超低出生体重児が増えている。

	2008年	2009年	2010年	2011年	2012年	2013年	2014年	2015年
500g未満	4	2	2	-	3	-	5	7
500-999g	14	17	12	12	11	19	15	19
1,000-1,499g	15	20	26	26	16	27	25	13
1,500-1,999g	54	62	74	58	57	60	45	48
2,000-2,499g	143	219	148	155	129	165	136	137
2,500g以上	546	521	537	666	690	732	748	770

◆ 出産時年齢（例）

出産時年齢について大きな変化はないが、長期的には全国と同様の高齢妊娠・分娩の増加がみられる。また、生殖補助技術の発展により、45歳を超える超高齢での出産も数例あった。

2013年12月から当院では母体血を用いた非侵襲的出生前診断（NIPT）を行っており、35歳以上の妊婦で希望する方は受検することができる。

	2012年	2013年	2014年	2015年
35歳未満	593	632	644	610
35-39歳	212	239	225	250
40-44歳	68	64	56	79
45歳以上	1	3	4	4

◆ 合併症妊娠（例）

合併症妊娠の内訳には大きな変化はない。この数年間は登録システムの変革期にあることもあり、記載上の症例数に変動する可能性があることをお詫びしたい。

	2008年	2009年	2010年	2011年	2012年	2013年	2014年	2015年
子宮筋腫	-	-	-	-	-	69	52	49
子宮筋腫（核出術後）	29	36	37	32	49	16	6	5
卵巣嚢腫（腫瘍）	5	10	8	15	8	26	22	25
子宮頸癌（含円錐切除後）	5	4	7	11	7	9	7	9
子宮奇形	5	4	4	7	4	4	2	4
甲状腺機能亢進症	13	11	7	13	18	17	8	14
甲状腺機能低下症	7	6	6	11	6	11	17	14
糖尿病（含GDM）	23	12	15	31	28	39	45	54
喘息	15	11	14	24	26	49	19	25
慢性腎炎	6	6	7	5	7	3	1	12
本態性高血圧	9	6	4	12	9	16	12	12
ITP	5	4	6	7	5	9	-	-
自己免疫疾患	6	10	6	17	12	11	14	10
循環器疾患	8	10	10	15	14	8	17	14
精神科疾患（含てんかん）	26	35	29	48	43	58	47	49
ウイルス性肝炎（HA, HB, HCなど）	7	11	7	14	10	6	9	11
消化器疾患（虫垂炎、潰瘍性大腸炎など）	8	6	5	17	6	8	13	12

H25:筋腫に核出術後含む

◆ 産科合併症（例 重複あり）

産科合併症については大きな変化がないが、前置胎盤の多い年であった。

	2008年	2009年	2010年	2011年	2012年	2013年	2014年	2015年
切迫早産・前期破水	139	165	182	188	164	151	131	109
妊娠高血圧症候群	53	73	69	66	52	51	49	49
胎内胎児発育制限	43	59	64	51	51	36	45	31
多胎妊娠	69	58	56	60	46	76	56	51
前置胎盤	20	21	26	27	28	20	14	21
産後出血	18	17	17	30	23	12	24	10
常位胎盤早期剥離	9	13	9	23	11	9	15	10
HELLP症候群	4	3	3	5	8	4	6	4
低置胎盤	14	12	16	19	12	15	12	6
血液型不適合	11	12	9	20	20	27	11	12
羊水過多	6	5	9	11	11	8	8	7
羊水過小	4	7	5	8	6	9	14	9
胎児異常	36	34	50	56	53	25	28	-

◆ 産科手術他（例）

産科手術については大きな変化はない。

	2008年	2009年	2010年	2011年	2012年	2013年	2014年	2015年
子宮頸管縫縮術	13	12	7	7	15	11	8	14
卵巣嚢腫（腫瘍）摘出術	5	6	5	5	5	1	1	3
産道血腫除去術	4	5	4	9	1	5	8	1
子宮動脈塞栓術	3	5	6	6	6	8	5	3
子宮摘出術	2	2	2	2	-	3	4	4
胎児胸腹水穿刺	1	3	4	5	1	-	-	-
羊水除去	1	1	2	4	2	-	-	-

◆ 輸血治療症例（例）

輸血治療については大きな変化はない。当院では輸血について十分なストックがあり、不足分については血液センターからの取り寄せについても輸血部から即時依頼を行っていただける。下記の症例数は同種血輸血のみであり、自己血輸血は含まない。

	2008年	2009年	2010年	2011年	2012年	2013年	2014年	2015年
輸血治療症例数	15	12	12	34	19	20	22	9

◆ NICU 収容症例数（例）

NICU 症例数についてはここ数年漸増している。2016 年の病棟移転に伴い、これまで産科で処置されていた入院加療を必要とする児が全て GCU に収容されることが決定しており、2016 年も症例数が増加する予定である。周産期のキャパシティを決定づけるのはこれまで以上に新生児科の要因が大きくなることが明らかであり、スタッフの増員とさらなる手当が必須である。

	2008年	2009年	2010年	2011年	2012年	2013年	2014年	2015年
NICU収容症例数	115	140	151	128	111	147	131	160

◆ 多胎妊娠（例）

多胎妊娠数については 2013 年に増加したが、2014 年以降は再度減少している。生殖補助医療（ART：体外受精など）による双胎が学会による受精卵移植数制限の会告以降、増加に歯止めがかかっていることに影響されていると考える。

	2008年	2009年	2010年	2011年	2012年	2013年	2014年	2015年
双胎	66	57	56	59	43	75	56	50
うちMD	26	20	18	34	15	24	19	37
うちDD	40	37	38	25	28	51	37	11
うち不明	-	-	-	-	-	-	-	2
三胎	3	1	-	1	-	1	-	1

◆ 母体搬送収容数（例）＜奈良県周産期医療情報システムより集計＞

2014 年以降はそれまでに比べて減少しているが、搬送の応需率には変動がないことと、後述の MFICU 収容数（微減程度である）の内訳から、院内他院から各症例について早期に外来レベルで紹介されることが大きな要因であると推定できる。母体救命のための搬送は病床の状況を問わず全例収容している。

	2008年	2009年	2010年	2011年	2012年	2013年	2014年	2015年
母体搬送収容数	83	130	153	146	157	156	107	125

◆ 母体搬送疾患名（例 重複あり）＜奈良県周産期医療情報システムより集計＞

母体搬送疾患の内訳については見かけ上変化が見られるが、実数ではそれほどの差異はない。これは2013年からシステムでの集計を用いており（医師による確認は行っている）、2014年からは代表的な疾患名を選択しているため、それ以前の集計と差があるためである。

	2008年	2009年	2010年	2011年	2012年	2013年	2014年	2015年
切迫早産・前期破水	48	68	89	75	77	87	49	56
妊娠高血圧症候群	12	17	27	17	22	13	7	10
胎内胎児発育制限	6	11	16	5	15	7	1	3
産後出血	11	10	11	15	15	6	16	12
胎児機能不全	10	10	12	9	15	8	2	1
常位胎盤早期剥離	5	10	4	14	9	11	8	8
前置胎盤	3	5	6	2	7	5	2	5
多胎	1	4	5	3	2	11	2	4
HELLP症候群	3	3	3	2	6	3	4	3
胎児奇形	2	3	6	1	1	-	3	1
その他	13	18	22	17	13	61	13	22

◆ 胎児異常（例）

胎児異常の例数については大きな変化がないが、母体血を用いた出生前遺伝学的検査（NIPT）の開始と羊水検査の増加から、21トリソミーの診断数が増加している。

疾患名	2012年		2013年		2014年		2015年	
	症例数	胎内診断	症例数	胎内診断	症例数	胎内診断	症例数	胎内診断
cystic hygroma	4	4	1	1	4	4	6	6
18トリソミー	3	2	3	2	-	-	3	3
髄膜瘤	2	2	1	1	-	-	3	2
21トリソミー	6	3	4	-	7	5	3	1
手指異常（合指／多指）	-	-	2	-	1	-	3	-
脳室拡大	2	2	5	5	6	6	2	2
先天性横隔膜ヘルニア	1	1	-	-	1	1	2	2
心室中隔欠損	3	1	1	1	2	1	2	1
仙尾部奇形腫	1	1	-	-	1	1	1	1
胎児水腫	1	1	-	-	-	-	1	1
骨系統性疾患	1	1	3	2	-	-	1	1
小腸閉鎖	1	1	-	-	-	-	1	1
無頭蓋症	1	1	-	-	-	-	1	1
尿道下裂	-	-	2	1	3	-	1	-
口唇裂・口蓋裂	3	2	3	2	1	1	-	-
不整脈	3	3	4	4	1	1	-	-
胸腹水	3	3	1	1	1	1	-	-
無脳症	3	3	-	-	-	-	-	-
ファロー四徴症	2	2	-	-	-	-	-	-
水腎症	2	2	-	-	1	1	-	-
兩大血管右室起始	2	2	1	1	-	-	-	-
大血管転位	2	1	-	-	-	-	-	-
鎖肛	2	-	-	-	-	-	-	-
心臓腫瘍	1	1	-	-	1	1	-	-
十二指腸閉鎖	1	1	1	-	-	-	-	-
先天性嚢胞性腺腫様奇形	1	1	1	1	1	1	-	-
Dandy-Walker奇形	-	-	-	-	1	1	-	-
大脳半球間裂嚢胞	1	1	-	-	-	-	-	-
卵巣嚢腫	1	1	-	-	-	-	-	-
脳瘤	1	1	-	-	-	-	-	-
気管軟化症	1	-	1	-	-	-	-	-
尿道閉鎖	1	1	-	-	-	-	-	-
Treacher-Collins症候群	1	-	-	-	-	-	-	-
全前脳胞症	-	-	1	1	-	-	-	-
総排泄腔遺残	-	-	1	1	-	-	-	-
腹壁破裂	-	-	1	1	2	2	-	-
筋ジストロフィー	-	-	2	-	-	-	-	-
染色体微小欠失	-	-	2	1	-	-	-	-
片腎欠損	-	-	1	1	-	-	-	-
Potter sequence	-	-	1	1	1	1	-	-
食道閉鎖	-	-	1	-	-	-	-	-
脳梗塞	-	-	1	-	-	-	-	-
尿膜管遺残	-	-	-	-	1	-	-	-
無眼球症	-	-	-	-	1	-	-	-
脳梁欠損	-	-	-	-	1	1	-	-
大動脈離断症	-	-	-	-	1	-	-	-
大動脈縮窄	-	-	-	-	1	1	-	-
硬膜下血腫	-	-	-	-	1	-	-	-
血管腫	-	-	-	-	1	-	-	-
脳腫瘍	-	-	-	-	1	1	-	-
脳出血	-	-	-	-	1	-	-	-

◆ MFICU 入院患者数（例）

MFICU 入院患者数については若干の減少があった。とくに母体搬送例が減少し、院内で外来から収容される例が増加している。これは県内他院（とくに開業医）から早期に診断されて当院に外来レベルで紹介される症例が増加しているためであるが、他方、切迫早産例・妊娠高血圧症候群例・重度の胎児発育遅延例など、母体搬送すべきと考えられる例も外来紹介されることがあり、どちらの方が良いか今後も検討していく必要がある。

	2008年	2009年	2010年	2011年	2012年	2013年	2014年	2015年
院内症例	53	68	46	66	49	38	64	37
搬送症例	42	99	142	125	142	141	97	112
合計	95	167	188	191	191	179	161	149

◆ MFICU 入院適応（例）

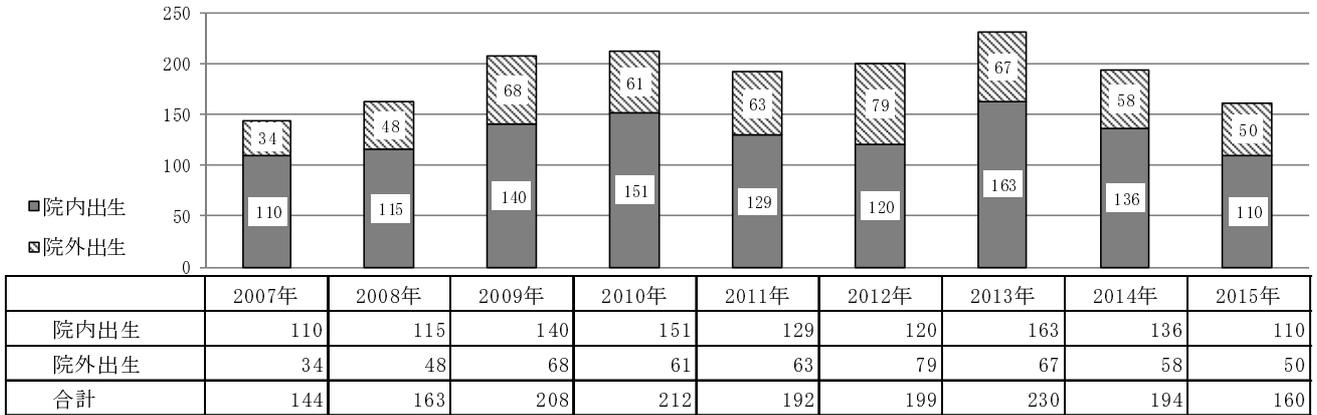
MFICU の入院適応については大きな変化がない。

	2008年	2009年	2010年	2011年	2012年	2013年	2014年	2015年
切迫早産	40	88	99	81	82	89	66	63
妊娠高血圧症候群	18	28	30	35	31	24	16	14
産後出血	7	13	14	23	20	18	25	11
常位胎盤早期剥離	2	8	5	19	8	11	13	11
胎内胎児発育不全	9	15	18	15	19	12	2	8
前置胎盤	7	13	17	14	11	13	8	10
双胎	6	12	8	7	4	15	10	6
HELLP症候群	2	3	3	5	8	4	4	4
胎児異常	6	4	4	2	3	5	6	2
肺水腫	5	2	3	2	3	3	-	-
合併症妊娠	5	13	20	25	36	18	5	6
その他	10	7	5	3	3	3	-	17

(2) 新生児部門診療実績

◆ 入院数 (例)

2015年の総入院数は160例(うち再入院2例)で、院内出生が110例、院外出生50例であった。2013年以降、長期入院患者が増加しているため、院外出生、院内出生ともに入院数は減少傾向である。



◆ 入院時疾患名 (例)

入院の適応となった疾患で最も多いのが低出生体重児(38例)で、ついで超低出生体重児(20例)、新生児一過性多呼吸(20例)、極低出生体重児(11例)が多かった。

		2011	2012	2013	2014	2015
心・循環器疾患		10	12	5	10	5
内 訳	血管輪	-	-	-	-	2
	大動脈縮窄症	-	-	-	2	1
	先天性動脈管開存症	-	-	-	1	1
	右側相同	-	-	-	-	1
	Fallot四徴症	-	3	-	2	-
	左心低形成	-	1	1	1	-
	左室緻密化障害	-	-	-	1	-
	心室中隔欠損	-	-	-	1	-
	兩大血管右室起始	-	2	-	1	-
	心房粗動	-	-	-	1	-
	不整脈	1	1	1	-	-
	大動脈肺動脈窓(AP window)	1	-	1	-	-
	WPW症候群	1	-	1	-	-
	VSD ASD	-	-	1	-	-
	完全大血管転位	2	3	-	-	-
	動脈動脈瘤	-	1	-	-	-
	心房頻拍	-	1	-	-	-
	肺動脈閉鎖	2	-	-	-	-
	修正大血管転位	2	-	-	-	-
	心筋炎	1	-	-	-	-
脳・神経疾患		11	6	11	12	3
内 訳	髄膜瘤	2	1	1	1	2
	帽状腱膜下血腫	-	-	1	-	1
	硬膜下血腫	1	-	-	3	-
	脊髓脂肪腫	-	-	-	2	-
	てんかん	-	-	-	2	-
	脈絡叢乳頭瘤	-	-	-	1	-
	脳梁欠損	-	1	-	1	-
	水頭症	-	-	-	1	-
	Dandy-Walker症候群	-	-	-	1	-
	筋緊張性ジストロフィー	-	-	3	-	-
	脳室拡大	-	-	2	-	-
	新生児痙攣	3	-	2	-	-
	脳梗塞	-	-	1	-	-
	頭蓋内出血	-	1	1	-	-
	頭蓋骨早期癒合症	1	1	-	-	-
	低酸素性虚血性脳症	-	1	-	-	-
	二分脊椎	-	1	-	-	-
全前脳胞症	1	-	-	-	-	
大脳半球間裂嚢胞	1	-	-	-	-	
脳嚢胞	1	-	-	-	-	
滑脳症	1	-	-	-	-	

次ページへつづく

		2011	2012	2013	2014	2015
呼吸器疾患		24	39	38	40	38
内訳	新生児一過性多呼吸	16	29	21	22	20
	呼吸窮迫症候群	2	1	1	4	4
	新生児無呼吸発作	-	1	7	5	4
	気胸	3	-	2	3	3
	先天性横隔膜ヘルニア	-	2	-	2	3
	出血性肺浮腫	-	-	-	2	1
	胎便吸引症候群	1	3	2	1	1
	先天性乳び胸	-	-	1	-	1
	間質性肺炎	-	-	-	-	1
	肺リンパ嚢胞	-	-	-	1	-
	縦隔気腫	-	1	1	-	-
	心嚢気腫	-	-	1	-	-
	声門下狭窄	-	-	1	-	-
	CCAM	-	-	1	-	-
	先天性横隔神経麻痺	-	1	-	-	-
	披裂部喉頭軟化症、気管軟化症	-	1	-	-	-
	先天性のう胞肺	1	-	-	-	-
	誤嚥性肺炎	1	-	-	-	-
	染色体異常 奇形症候群	21	16	17	9	12
	内訳	Down症候群	11	5	5	2
口唇口蓋裂		2	1	2	1	1
Prader-Willi症候群		-	-	-	1	1
尿道下裂		-	-	-	1	1
18トリソミー		2	1	2	-	1
コステロ症候群		-	-	-	-	1
noonan症候群		-	-	-	-	1
タナトフォリック骨異形成症		-	-	-	-	1
小顎症		1	1	-	-	1
尿膜管遺残症		-	-	-	-	1
仙尾部奇形腫		-	1	-	1	-
結節性硬化症		1	-	-	1	-
低形成異形成腎		-	-	-	1	-
左反張膝		-	-	-	1	-
奇形症候群		-	-	2	-	-
仙骨部皮膚洞		-	-	1	-	-
傍尿道のう腫		-	-	1	-	-
13トリソミー		-	-	1	-	-
GREIG cephalopolysyndactyly syndrome		-	-	1	-	-
Jarcot-Levine syndrome		-	-	1	-	-
Juberg-Hayward syndrome		-	-	1	-	-
多発性関節脱臼・拘縮症		-	2	-	-	-
脳肋骨下顎症候群		-	1	-	-	-
先天性魚鱗癬		-	1	-	-	-
5p-症候群		-	1	-	-	-
18番染色体部分欠損		-	1	-	-	-
Trecher Collins		-	1	-	-	-
4番14番染色体異常		1	-	-	-	-
Klippel-Weber 症候群		1	-	-	-	-
先天性四肢短縮症		1	-	-	-	-
骨形成不全		1	-	-	-	-

		2011	2012	2013	2014	2015
消化管疾患		13	12	11	20	8
内訳	Hirschsprung病	1	-	1	2	2
	新生児メレナ	2	1	1	1	2
	新生児嘔吐症	5	4	4	9	1
	鎖肛	1	1	3	2	1
	ミルクアレルギー	-	1	-	-	1
	小腸閉鎖	-	-	-	-	1
	腸回転異常症	-	-	1	1	-
	腹壁破裂	-	-	1	1	-
	臍尿瘻	-	-	-	1	-
	肛門異所性開口	-	-	-	1	-
	胃軸捻転	-	1	-	1	-
	急性胃粘膜病変	1	-	-	1	-
	消化管出血	-	2	-	-	-
	小腸十二指腸閉鎖	3	1	-	-	-
	哺乳不良	-	1	-	-	-
	感染症	4	6	2	2	3
内訳	新生児感染症	4	6	2	2	-
	新生児TTS様発疹症	-	-	-	-	1
	先天性サイトメガロウイルス感染症	-	-	-	-	1
細菌性髄膜炎	-	-	-	-	1	
その他	109	106	141	96	89	
内訳	低出生体重児(1,500-2,499g)	52	46	78	33	38
	極低出生体重児(1,000-1,499g)	24	19	24	23	11
	超低出生体重児(<1,000g)	12	17	22	22	20
	新生児仮死	11	12	7	8	8
	低血糖症	1	2	-	-	2
	sleeping baby	1	-	-	-	2
	ABO血液型不適合溶血	-	-	-	-	2
	墜落分娩	1	-	1	-	1
	新生児臍炎	1	-	-	-	1
	高インスリン性低血糖	-	-	-	-	1
	球状赤血球症	-	-	-	-	1
	先天性血管拡張性大理石様皮斑	-	-	-	-	1
	リンパ管腫	-	-	-	-	1
	新生児高ビリルビン血症	3	2	3	5	-
	早産児	2	3	2	1	-
	胎児母体間輸血症候群	-	-	1	1	-
	一過性甲状腺機能低下症	-	-	-	1	-
	Upshaw-Schulman症候群	-	-	-	1	-
	ホモシチン尿症	-	-	-	1	-
	新生児Basedow病	-	-	2	-	-
血友病Bの疑い	-	-	1	-	-	
ビルビン酸脱水素酵素複合体欠損	-	1	-	-	-	
右ソケイ部皮膚欠損	-	1	-	-	-	
左耳出血	-	1	-	-	-	
新生児月経	-	1	-	-	-	
未受診妊婦からの出生	-	1	-	-	-	
胎児腹水	1	-	-	-	-	

◆ 出生週数（例）

出生時週数別の入院数は在胎 28 週未満で出生した児は 13 例で減少、28 週以上 36 週未満は 62 例で前年とほぼ同数であった。

	2007年	2008年	2009年	2010年	2011年	2012年	2013年	2014年	2015年
22週	-	3	2	1	-	-	-	2	1
23週	-	3	1	-	1	3	3	2	1
24週	2	3	-	3	2	-	3	4	6
25週	1	3	3	-	2	2	4	3	1
26週	5	6	5	6	1	-	2	5	1
27週	2	4	10	3	2	5	2	4	3
28週	2	1	5	8	6	5	6	6	7
29週	2	2	3	8	3	7	5	4	2
30週	9	3	5	4	5	3	7	3	4
31週	7	5	11	9	16	6	5	8	6
32週	12	8	19	13	13	9	18	8	8
33週	13	12	15	20	10	15	27	15	10
34週	16	16	24	22	15	24	28	8	11
35週	13	15	15	10	15	9	17	13	14
36週	7	11	10	9	14	18	14	15	13
37週以上	53	68	80	95	87	93	84	89	70

◆ 出生時体重（例）

出生時体重別の入院数は 1000 g 未満が 20 例で前年とほぼ同数、1000 g 以上 1500 g 未満が 13 例で減少した。

	2007年	2008年	2009年	2010年	2011年	2012年	2013年	2014年	2015年
500g未満	1	4	2	2	-	3	-	5	1
500-749g	5	7	8	7	5	4	10	9	10
750-999g	6	9	13	6	7	10	13	8	9
1,000-1,249g	8	7	9	12	8	9	12	7	3
1,250-1,499g	16	7	10	13	18	10	16	16	10
1,500-1,749g	17	16	31	30	24	18	21	14	14
1,750-1,999g	21	23	27	33	19	23	33	14	18
2,000-2,249g	13	16	19	15	21	18	21	10	16
2,250-2,499g	11	13	16	20	15	22	26	21	15
2,500g以上	46	61	73	74	75	82	73	85	62

◆ 人工呼吸器管理症例

2015 年の人工呼吸器管理症例は 91 例で、人工呼吸管理率は増加傾向にある。

	2007年	2008年	2009年	2010年	2011年	2012年	2013年	2014年	2015年
入院数（例）	144	163	208	212	192	199	230	194	160
人工呼吸器管理症例数(例)	55	73	98	105	85	97	99	105	91
人工管理症例率（%）	38.2	44.8	47.1	49.5	44.3	48.7	43.0	54.1	56.9

◆ 外科疾患（心臓、眼科、脳外科など含む）

2015年の手術症例は26例で、消化器外科疾患(15例)が最も多く、次いでレーザー光凝固術(9例)、脳神経外科疾患(3例)であった。

性別	出生週数	出生体重	疾患名	術式
男	22週	378g	超低出生体重児 未熟児網膜症	レーザー光凝固術
男	28週	584g	超低出生体重児 小腸イレウス	イレウス解除術
男	24週	601g	超低出生体重児 動脈管開存症 未熟児網膜症	動脈管クリッピング術 レーザー光凝固術
男	24週	602g	超低出生体重児 未熟児網膜症	レーザー光凝固術
男	24週	685g	超低出生体重児 未熟児網膜症	抗VEGF眼内投与
女	29週	710g	超低出生体重児 動脈管開存症 乳び胸水	動脈管クリッピング術 胸腔ドレナージ
男	24週	746g	超低出生体重児 未熟児網膜症	レーザー光凝固術
男	27週	818g	超低出生体重児 未熟児網膜症 壊死性腸炎	レーザー光凝固術 小腸切除術
女	28週	952g	超低出生体重児 未熟児網膜症	レーザー光凝固術
男	29週	980g	超低出生体重児 未熟児網膜症	レーザー光凝固術
男	28週	1,188g	極低出生体重児 未熟児網膜症	レーザー光凝固術
女	27週	1,266g	noonan症候群	胸腔ドレナージ
男	31週	1,498g	新生児仮死	気管切開術 胃瘻造設術
女	37週	1,774g	小腸閉鎖	腸吻合術
男	37週	2,104g	小顎症	気管切開術
男	37週	2,308g	先天性横隔膜ヘルニア	ヘルニア修復術
男	38週	2,398g	鎖肛	肛門形成術
男	37週	2,508g	先天性横隔膜ヘルニア	ヘルニア修復術
女	36週	2,660g	脊髄髄膜瘤 水頭症	髄膜瘤修復術 脳室腹腔内シャント術
女	38週	2,766g	細菌性髄膜炎	脳室腹腔内シャント術
男	37週	2,852g	先天性血管拡張性大理石様皮斑	気管切開術
男	39週	2,992g	先天性横隔膜ヘルニア	ヘルニア修復術
女	37週	3,198g	21トリソミー	気管切開術 胃ろう造設
女	36週	3,358g	脊髄髄膜瘤 水頭症	髄膜瘤修復術 脳室腹腔内シャント術
男	38週	3,372g	乳び胸水	胸腔ドレナージ
男	40週	3,516g	尿管遺残症	尿管遺残症修復術

◆ 血液浄化症例

2015年は2例重症黄疸で、1例母児間輸血症候群の重症貧血に対して交換輸血を行った。

出生週数	出生体重	適応疾患	治療法
37週5日	3,198g	黄疸 ダウン症	全血交換輸血
39週1日	2,706g	黄疸 遺伝性球状赤血球症	全血交換輸血
40週5日	3,048g	母児間輸血症候群	全血交換輸血

◆ 出生週数別の日齢28日以後の生存数（例）

2015年の28週未満の生後28日までの死亡例は在胎23週で出生した1例だけであった。

	2013年（内訳）	2014年（内訳）	2015年（内訳）
22週	-（- / -）	100.0（2 / 2）	100.0（1 / 1）
23週	100.0（3 / 3）	100.0（2 / 2）	0.0（0 / 1）
24週	66.7（2 / 3）	100.0（4 / 4）	100.0（6 / 6）
25週	100.0（4 / 4）	100.0（3 / 3）	100.0（1 / 1）
26週	100.0（2 / 2）	80.0（4 / 5）	100.0（1 / 1）
27週	50.0（1 / 2）	100.0（4 / 4）	100.0（3 / 3）
28週	100.0（6 / 6）	83.3（5 / 6）	85.7（6 / 7）
29週	100.0（5 / 5）	100.0（4 / 4）	100.0（2 / 2）
30週	100.0（7 / 7）	100.0（3 / 3）	100.0（4 / 4）
31週	100.0（5 / 5）	100.0（8 / 8）	100.0（6 / 6）
32週	94.4（17 / 18）	100.0（8 / 8）	100.0（8 / 8）
33週	100.0（27 / 27）	100.0（15 / 15）	100.0（10 / 10）
34週	100.0（28 / 28）	100.0（8 / 8）	100.0（11 / 11）
35週	100.0（17 / 17）	100.0（13 / 13）	100.0（14 / 14）
36週	100.0（14 / 14）	100.0（15 / 15）	92.3（12 / 13）
37週以下	97.6（82 / 84）	98.9（88 / 89）	98.6（69 / 70）

内訳：各週数毎の生存数(例)/各週数毎の出生数(例)

◆ 出生体重別の日齢28日以後の生存数（例）

2015年は極低出生体重児、超低出生体重児の生後28日までの死亡例は2例であった。

	2013年（内訳）	2014年（内訳）	2015年（内訳）
500g未満	-（- / -）	60.0（3 / 5）	100.0（1 / 1）
500-749g	90.0（9 / 10）	100.0（9 / 9）	80.0（8 / 10）
750-999g	92.3（12 / 13）	100.0（8 / 8）	100.0（9 / 9）
1,000-1,249g	100.0（12 / 12）	100.0（7 / 7）	100.0（3 / 3）
1,250-1,499g	93.8（15 / 16）	100.0（16 / 16）	100.0（10 / 10）
1,500-1,749g	100.0（21 / 21）	100.0（14 / 14）	92.9（13 / 14）
1,750-1,999g	100.0（33 / 33）	100.0（14 / 14）	100.0（18 / 18）
2,000-2,249g	95.2（20 / 21）	100.0（10 / 10）	100.0（16 / 16）
2,250-2,499g	100.0（26 / 26）	95.2（20 / 21）	100.0（15 / 15）
2,500g以上	98.6（72 / 73）	100.0（85 / 85）	98.4（61 / 62）

内訳：各体重毎の生存数(例)/各体重毎の出生数(例)

◆ 新生児死亡数（例）

日齢7日未満の死亡例は3例で、1例は超出生体重児、1例は18トリソミー、1例はタナトフォリック骨異形成症であった。

日齢7日から28日までの死亡例は1例で、出生体重500g未満の児であった。

	2013年	2014年	2015年
早期新生児死亡数(日齢7日未満の死亡)	2	2	3
後期新生児死亡数(日齢7日以上、日齢28日未満の死亡)	3	1	-

◆ 死亡例一覧

2015年の死亡症例は5例であった。早産、低出生体重児の死亡例は3例で、うち1例は多発性嚢胞腎を合併していた。他、18トリソミー1例、タナトフォリック骨異形成症1例であった。

性別	出生週数	出生体重	死亡日齢	病名
女	23週3日	638g	9日	超低出生体重児 脳室内出血 真菌感染症
男	28週5日	726g	0日	超低出生体重児 気胸
女	26週5日	985g	119日	超低出生体重児 多発性嚢胞腎
女	37週2日	1,746g	1日	18トリソミー
男	36週5日	2,998g	6日	タナトフォリック骨異形成症

◆ 新生児搬送収容数（例）＜奈良県周産期医療情報システムより集計＞

2015年の当院への新生児搬送依頼件数（登録数）は52例で、当院で収容できたのが45例、県内施設に収容したのが7例であった。当院から県外への搬送依頼はなかった。

	2008年	2009年	2010年	2011年	2012年	2013年	2014年	2015年
新生児搬送収容数	32	52	45	62	65	57	48	45

◆ 新生児搬送疾患名（例 重複あり）＜奈良県周産期医療情報システムより集計＞

2015年の新生児搬送の主訴は呼吸障害（18例）が最も多く、ついで消化器疾患（9例）が多かった。

		2013	2014	2015
呼吸器疾患		20	18	18
内 訳	呼吸障害	19	17	18
	新生児無呼吸発作	1	1	-
心・循環器疾患		2	3	3
内 訳	心疾患	-	-	1
	心雑音	-	1	1
	心奇形	-	1	1
	心不全	-	1	-
	不整脈	2	-	-
消化管疾患		8	9	11
内 訳	血便	-	2	3
	新生児嘔吐症	2	2	2
	腹部膨満	-	-	2
	哺乳不良	1	-	2
	鎖肛	4	2	1
	尿道下裂	-	1	1
	胆汁性嘔吐	1	1	-
	肛門部奇形	-	1	-
脳・神経疾患		3	3	2
内 訳	けいれん発作	2	1	1
	帽状腱膜下血腫	1	-	1
	脊髄髄膜瘤	-	2	-

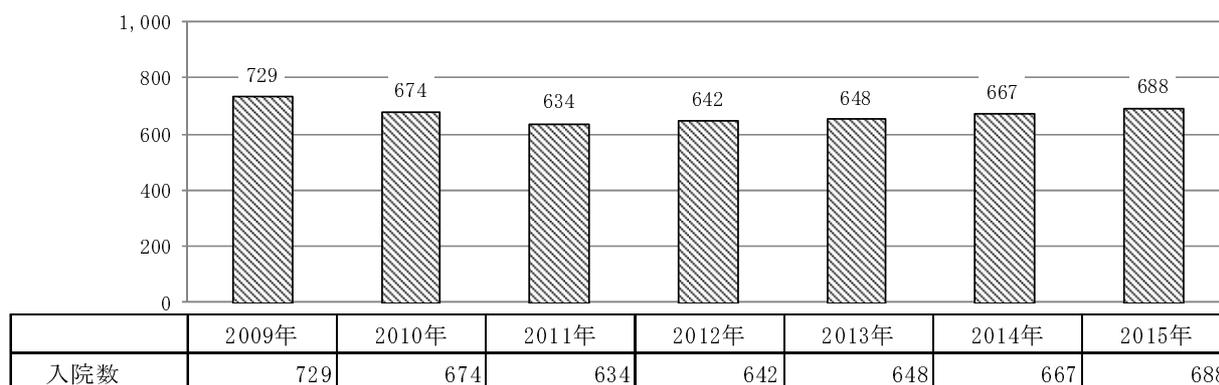
		2013	2014	2015
染色体異常 奇形症候群		5	2	3
内 訳	ダウン症	-	1	1
	奇形（症候群）	2	-	1
	口唇口蓋裂	2	-	1
	反跳膝	-	1	-
	仙骨部皮膚洞	1	-	-
感染症		-	-	3
感染症		-	-	3
その他		18	14	14
内 訳	低出生体重児	6	1	3
	新生児仮死	2	3	4
	黄疸	3	5	1
	チアノーゼ	2	2	2
	吐血	-	-	1
	性分化異常	-	-	1
	臀部腫瘍	-	-	1
	臍帯ヘルニア疑い	-	-	1
	甲状腺機能異常	-	1	-
	インフルエンザ疑い	-	1	-
	下肢浮腫	-	1	-
	低血糖	2	-	-
	多血	1	-	-
	発熱	1	-	-
	臍部の嚢胞	1	-	-

### 3. 奈良県総合医療センター

#### (1) 産科部門診療実績

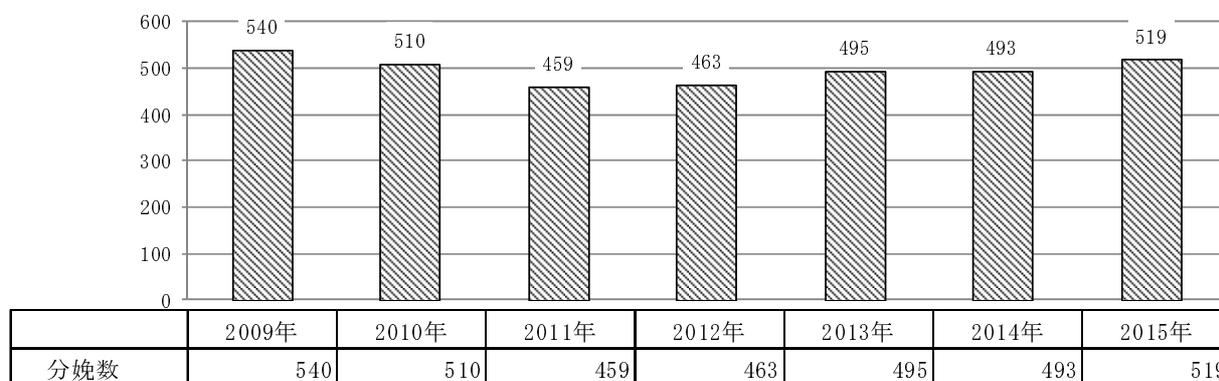
##### ◆ 入院数（例）

入院患者数はほぼ横ばいである。産科病棟 26 床の病床利用率は 90%以上と増加傾向にあるものの、ハイリスク妊娠の増加により平均在院日数は 12 日以上に延長傾向にある。切迫早産などの診断で当センターへ母体搬送された症例は、妊娠 35 週以降まで入院管理が行えた場合、患者の希望も考慮し、逆紹介により紹介元での分娩も積極的に勧めている。



##### ◆ 分娩数（例）

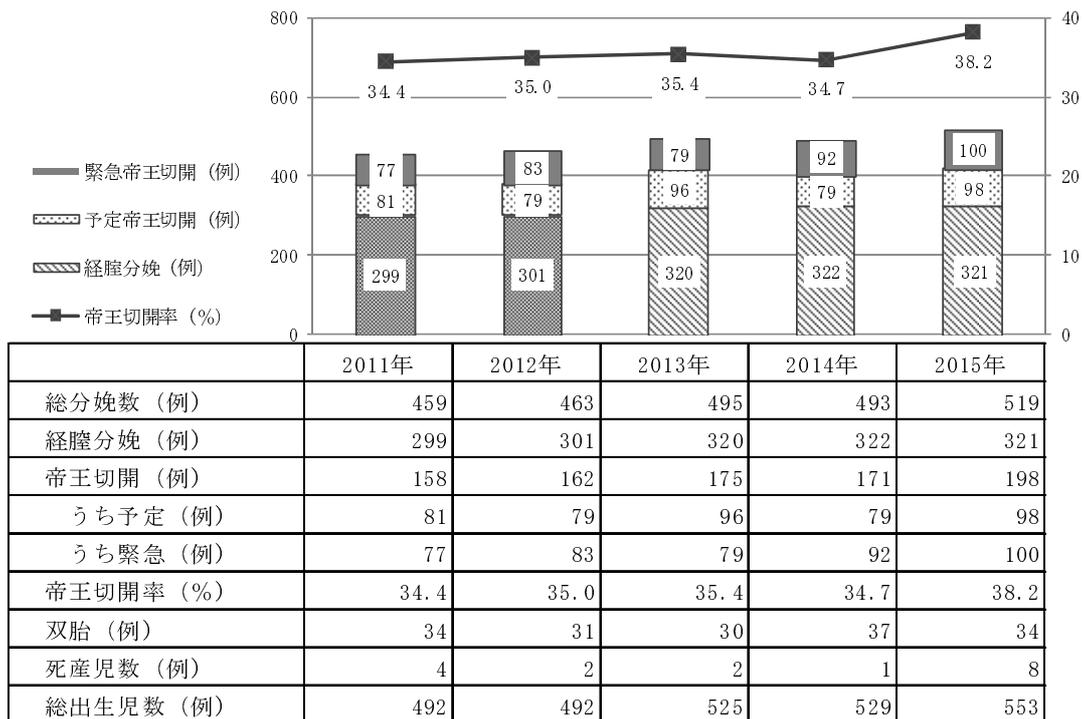
多胎妊娠も 1 例として表示している。2009 年までは分娩予約数がローリスク妊娠 8 件/週+ハイリスク妊娠 4 件/週であったが、2010 年の半年間はスタッフ減少のため、それぞれ 4 件/週+4 件/週としたため年間分娩数が減少した。その後それぞれを 5 件/週+5 件/週としておりローリスク分娩数はほぼ制限されているとあってよい。そのため分娩妊婦数は、近年やや減少傾向であった。しかしハイリスク妊娠および母体搬送の受け入れの増加に伴い、2013 年の分娩数は増加に転じ、2014 年以降もその水準を維持している。ハイリスク妊産婦の状態改善や妊娠 35 週以降までの維持管理が達成された場合、紹介元への逆紹介を積極的に行っており、その妊産婦数は年間約 50 例におよぶ。



◆ 分娩様式

2015年の分娩様式は例年と大きな変化はない。当センターでは既往帝王切開例はローリスク妊娠として扱っており、さらなるハイリスク妊娠の受け入れに重点を置いているため、帝王切開率は約38%と高率である。また、帝王切開症例のうち緊急帝切が50.5%と半数を超えている。

双胎分娩は34例で、ほぼ例年とおりであった。双胎のうち16例は予定帝切、13例は緊急帝切で分娩となり、6例が経膣分娩となっており、経膣分娩を行う症例は減少傾向にある。



◆ 分娩週数 (例 死産児は除く)

2011年から当センターでは妊娠28週以降(児推定体重1,000g以上)を、奈良医大ではそれ以前を含めた症例を中心に受け入れることを取り決めた結果から2013年は28週未満の分娩はなかったが、2014年は医大で対応できなかった26週双胎の分娩を受け入れた。一方、妊娠42週以降の過期産も数例認められ、大きな問題はなかったものの、過期産を回避する方向で妊娠管理基準を見直す必要がある。また分娩週数の中心は妊娠38週であったが、2013年には妊娠37週となった。2014年は37週と39週に2峰化したが、2015年は妊娠37週であった。ハイリスク妊娠における予定帝切日の設定が、リスクレベルに応じて37週にシフトしつつあることの結果と推定される。在胎週数37週の新児における各種適応障害と、妊娠リスクレベルとのバランスを十分考慮したうえで予定帝切日を設定する必要がある。

	2011年	2012年	2013年	2014年	2015年
25週	-	1	-	-	-
26週	1	-	-	2	-
27週	-	-	-	-	1
28週	-	2	2	2	4
29週	2	4	2	2	1
30週	3	5	6	4	4
31週	8	5	7	4	8
32週	8	4	11	10	10
33週	10	9	9	11	14
34週	13	18	18	22	21
35週	16	20	17	28	28
36週	27	23	29	23	43
37週	63	65	101	111	114
38週	96	108	91	73	101
39週	95	98	86	116	81
40週	85	67	85	86	83
41週	28	32	29	27	32
42週	1	2	2	6	-
不明	3	-	-	1	-

◆ 出生体重（例 死産児は除く）

2011年から当センターでは妊娠28週以降（児推定体重1,000g以上）を、奈良医大ではそれ以前を含めた症例を中心に受け入れることを取り決めた結果から、出生体重1,000g未満の分娩は年間2-3例で推移している。分娩週数の中心が妊娠38週から37週にシフトし、また低出生体重児の割合は31.45%で例年よりも増加していた。NICU収容の対象となっている2,000g未満の児は、2012年の51例（11.1%）と比較し、2013年は42例（8.0%）に減少したが、2014年は再び11.4%、2015年は13.8%まで増加した。

	2011年	2012年	2013年	2014年	2015年
500-999g	1	2	2	3	2
1,000-1,499g	13	15	15	14	15
1,500-1,999g	32	34	25	43	44
2,000-2,499g	87	79	87	91	110
2,500g以上	355	331	394	377	374
不明	4	-	-	-	-

◆ 出産時年齢（例）

2015年分娩妊婦519例のうち35歳以上は214例（41.2%）を占めている。2012年では38.4%であったが、2013年以降は40%を超え、ほぼ横ばいである。平均年齢は33.1±5.4歳で、わずかに上昇した。

	2012年	2013年	2014年	2015年
35歳未満	285	281	273	305
35-39歳	144	158	165	163
40-44歳	32	55	52	50
45歳以上	2	1	3	1

◆ 合併症妊娠（例）

合併症で多いのは子宮筋腫、糖尿病、精神科疾患などである。2013 年以降のデータは、日本産科婦人科学会の周産期登録データベースから抽出したものであるため、喘息合併の症例については、解析できていない。子宮筋腫核出術後については前述のデータベースからは解析できないが 2014 年は当院で独自に集計した。今後この周産期年報における表示項目についても再度検討する必要がある。合併症についての解析は、2012 年以前のデータベースが不完全と推測されるため、年次別変動については評価できない。しかしながら糖尿病や精神科疾患については、増加傾向に関して慎重な観察が必要であろうと思われる。

	2011年	2012年	2013年	2014年	2015年
子宮筋腫	-	-	36	33	29
子宮筋腫（核出術後）	27	13	-	10	14
卵巣嚢腫（腫瘍）	9	2	4	5	9
子宮頸癌（含円錐切除後）	7	-	3	8	10
子宮奇形	4	4	4	1	6
甲状腺機能亢進症	3	2	8	9	6
甲状腺機能低下症	3	1	7	10	9
糖尿病（含GDM）	23	11	20	27	27
喘息	14	3	-	-	11
慢性腎炎	5	-	3	2	4
本態性高血圧	3	1	1	7	4
自己免疫疾患	3	1	8	12	2
循環器疾患	4	1	3	2	7
精神科疾患（含てんかん）	14	4	14	33	24
ウイルス性肝炎（HA, HB, HCなど）	3	-	1	2	7
消化器疾患（虫垂炎、潰瘍性大腸炎など）	7	-	2	4	4

◆ 産科合併症（例 重複あり）

産科合併症では、やはり切迫早産や前期破水が多くを占めている。妊娠高血圧症候群、前置胎盤、常位胎盤早期剥離などの重篤な合併症も多々認められた。2013 年以降の弛緩出血の症例数が目立って増加しているが、これは産後 2 時間までの出血量が 500g 以上という、いわゆる分娩時多量出血の定義をもとに集計した結果である。産褥期のバイタル異常の出現例数を意味するものではない。以上も含め今後この周産期医療年報の表示項目における診断基準をさらに明確にする必要がある。

	2011年	2012年	2013年	2014年	2015年
切迫早産・前期破水	128	111	219	147	168
妊娠高血圧症候群	32	35	21	42	58
胎内胎児発育制限	21	5	13	14	35
多胎妊娠	34	31	30	36	34
前置胎盤	12	9	12	11	7
子癇	-	5	4	2	1
弛緩出血	15	97	282	136	56
常位胎盤早期剥離	10	11	4	8	8
HELLP症候群	1	3	1	-	1
低置胎盤	-	-	5	1	5
血液型不適合	-	-	6	4	6
羊水過多	-	-	-	1	-
羊水過小	-	-	2	3	7
その他	199	-	-	-	-

#### ◆ 産科手術他（例）

2015年に行った産科関連の手術は例年と大きな変化はなかった。胎児手術や羊水除去は当センターでは行っていない。

	2011年	2012年	2013年	2014年	2015年
子宮頸管縫縮術	4	3	3	5	6
卵巣嚢腫（腫瘍）摘出術	5	2	12	2	2
産道血腫除去術	1	1	-	1	-
子宮動脈塞栓術	4	2	2	4	3
子宮摘出術	3	-	1	1	-
その他	22	-	-	-	-

#### ◆ 輸血治療症例（例）

2015年は28例に対し輸血を要した。33例中5例は自己血であった。また、産後出血で受け入れた搬送症例のうち5例に輸血を行った。

	2011年	2012年	2013年	2014年	2015年
輸血治療症例数	27	-	14	20	33

#### ◆ NICU 収容症例数（例）

近年NICU収容新生児数が著明に増加している。専門的治療が行われること自体は好ましい状況であると考え、NICU収容基準の変化による収容数の増加、さらにハイリスク妊娠の増加や分娩週数の低下など、NICU収容新生児数の増加に影響する因子を解析し、対策を講じる必要がある。

	2011年	2012年	2013年	2014年	2015年
NICU収容症例数	121	145	208	227	141

◆ 多胎妊娠（例）

多胎妊娠は2010年以降30例前後で変動はなかったが、2014年には37例と例年より多かった。DDの比率が低下傾向であるが、その要因は体外受精における胚移植数の減少によるものが大きいと推測する。2013年にはMM双胎が1件あったが2014年、2015年には症例がなかった。妊娠32週前後から入院管理となる症例が多く、病床の占有と平均在院日数の増加に影響している。

	2009年	2010年	2011年	2012年	2013年	2014年	2015年
双胎	23	29	34	31	30	37	34
うちMD	-	-	9	11	11	16	10
うちDD	-	-	25	20	19	21	24

◆ 母体搬送収容数（例）＜奈良県周産期医療情報システムより集計＞

院外からの母体産褥搬送の収容は、2011年以降はほぼ横ばいであったが、2014年以降、受け入れ数が大幅に増加した。2015年の搬送症例147件のうち、138件が母体搬送であった。産褥搬送は9件であり、2014年の23件から激減した。母体搬送138例のうち、主に切迫早産で妊娠継続が可能であった35例は、紹介元への逆紹介が可能であった。

	2008年	2009年	2010年	2011年	2012年	2013年	2014年	2015年
母体搬送収容数	65	60	63	106	100	105	141	147

◆ 母体搬送疾患名（例 重複あり）＜奈良県周産期医療情報システムより集計＞

母体産褥搬送となった疾患に大きな変動はなかった。切迫早産や前期破水が大半を占める。妊娠高血圧症候群、産後出血、常位胎盤早期剥離、前置胎盤、HELLP症候群などの重篤例も相当数含まれているが、これらにおいても産後出血以外の増加傾向はない。

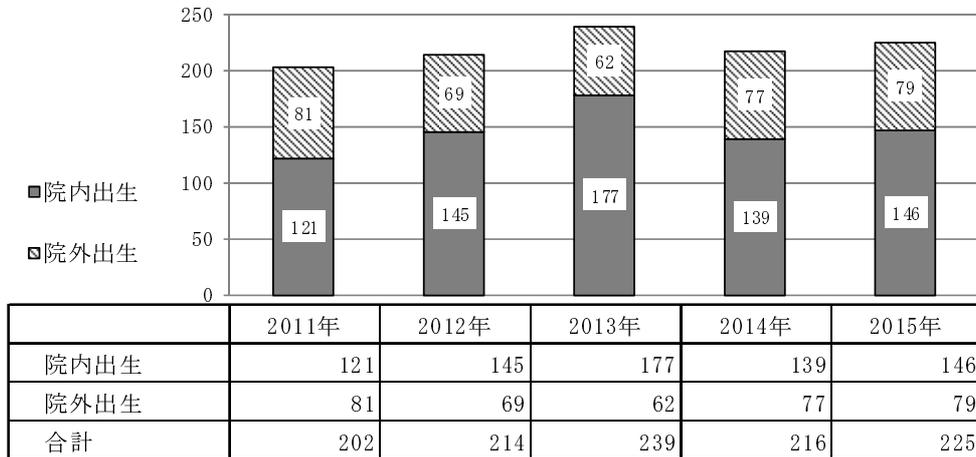
	2011年	2012年	2013年	2014年	2015年
切迫早産・前期破水	56	62	74	84	97
妊娠高血圧症候群	8	13	6	10	19
胎内胎児発育制限	8	5	2	1	1
産後出血	10	8	2	20	8
胎児機能不全	5	4	1	2	2
常位胎盤早期剥離	2	5	5	5	3
前置胎盤	2	5	2	1	2
多胎	-	-	1	4	-
HELLP症候群	-	3	1	2	-
その他	18	12	28	12	15

(2) 新生児部門診療実績

◆ 入院数 (例)

2014年 - 自宅1名と路上1名を院外とカウント

2015年 - 自宅1名を院外とカウント



◆ 入院時疾患名 (例)

	2011	2012	2013	2014	2015
呼吸器疾患	62	121	93	70	146
新生児一過性多呼吸	33	47	38	34	82
新生児呼吸窮迫症候群	3	22	6	5	46
新生児無呼吸発作	11	25	38	17	8
胎便吸引症候群	7	10	7	5	4
新生児肺出血	1	9	1	1	4
新生児気胸、新生児緊張性気胸	4	5	2	1	1
誤嚥性肺炎	-	-	-	-	1
新生児呼吸障害	-	-	-	4	-
喉頭軟化症	-	-	-	2	-
新生児慢性肺疾患	-	-	-	1	-
重症新生児無呼吸発作	-	-	1	-	-
肺炎	1	3	-	-	-
横隔膜ヘルニア	1	-	-	-	-
気管支炎	1	-	-	-	-
心・循環器疾患	4	4	1	3	4
動脈管早期閉鎖	-	-	-	-	1
新生児不整脈	-	-	-	-	1
心室中隔欠損症	-	1	-	-	1
Fallot四徴症	1	-	-	-	1
新生児遷延性肺高血圧症	2	2	-	1	-
両大血管右室起始症	-	-	-	1	-
新生児肺動脈閉鎖症	-	-	-	1	-
動脈管開存症	-	-	1	-	-
大動脈弓離断	-	1	-	-	-
完全大血管転位	1	-	-	-	-
消化管疾患	7	5	3	6	6
新生児嘔吐	-	-	1	3	5
新生児メレナ	1	1	1	-	1
哺乳障害	-	-	1	1	-
肥厚性幽門狭窄症	-	-	-	1	-
胎便栓症候群	-	-	-	1	-
初期嘔吐	5	4	-	-	-
腸回転異常	1	-	-	-	-
脳・神経疾患	3	4	1	1	1
新生児痙攣	2	1	-	-	1
新生児の筋緊張症	-	-	-	1	-
低酸素性脳症	-	-	1	-	-
囁状腱膜下出血	-	1	-	-	-
新生児頭蓋内出血	-	1	-	-	-
急性硬膜下出血	-	1	-	-	-
先天性水頭症	1	-	-	-	-
染色体異常 奇形症候群	7	3	5	4	6
21トリソミー	1	1	-	-	3
口唇口蓋裂	2	-	1	-	2
Prader-Willi症候群	1	-	1	-	1
18トリソミー	2	-	2	2	-
両側先天性水腎症	-	-	1	1	-
両側低形成腎	-	-	-	1	-
TAM	-	1	-	-	-
反張膝	-	1	-	-	-
タナトフォリック骨異形成症	1	-	-	-	-

		2011	2012	2013	2014	2015			2011	2012	2013	2014	2015
感染症		11	5	9	13	13	多血症		1	2	1	3	3
内 訳	新生児感染症	6	3	-	-	7	早産児		21	10	33	58	2
	GBS感染症	-	-	-	-	3	潜在性胎児仮死		-	-	-	-	1
	新生児TSS様発疹症	4	2	1	-	2	新生児臍炎		-	-	-	-	1
	先天梅毒疑い	-	-	-	-	1	重症新生児仮死		-	-	2	4	-
	新生児敗血症	-	-	3	2	-	新生児黄疸		-	-	2	2	-
	伝染性膿痂症	-	-	-	2	-	帝王切開症候群		-	-	1	2	-
	ウイルス性胃腸炎	-	-	1	1	-	新生児ABO不適合溶血性疾患		-	-	2	1	-
	細菌性髄膜炎	-	-	1	1	-	新生児低体温症		-	-	1	1	-
	MRSA感染症	-	-	1	1	-	新生児血小板減少症		-	-	-	1	-
	サイトメガロウイルス感染症	-	-	-	1	-	新生児脱水症		-	-	-	1	-
	RSウイルス感染症	-	-	-	1	-	後鼻孔閉鎖症		-	-	-	1	-
	重症感染症の疑い	-	-	-	1	-	新生児重症黄疸		-	-	-	1	-
	子宮内感染症	-	-	-	1	-	大腿骨骨幹部骨折		-	-	1	-	-
	リステリア症	-	-	-	1	-	Rh溶血性疾患		-	-	1	-	-
	新生児敗血症のショック	-	-	-	1	-	先天性表皮水疱症の疑い		-	-	1	-	-
	菌血症	-	-	1	-	-	small for date		-	14	-	-	-
	CBS敗血症	-	-	1	-	-	sleeping baby		1	2	-	-	-
	無菌性髄膜炎	1	-	-	-	-	新生児紫斑		-	1	-	-	-
その他	108	100	127	119	43	分娩時外傷		-	1	-	-	-	
内 訳	低出生体重児	43	27	50	27	10	甲状腺機能低下症		-	1	-	-	-
	極低出生体重児	12	16	19	10	1	寒冷障害		1	1	-	-	-
	超低出生体重児	2	3	2	2	-	双胎間輸血症候群		2	-	-	-	-
	新生児仮死	17	11	5	2	13	light for date		1	-	-	-	-
	新生児低血糖	1	7	3	1	4	低カルシウム血症		1	-	-	-	-
	高ビリルビン血症	4	4	3	1	4	代謝性アルカローシス		1	-	-	-	-
	高インスリン性低血糖症	-	-	-	1	4							

◆ 出生週数（例）

2013年 - 週数不明（おそらく満期と思われる）1名あり。

下表（2013年）とこの1名で合計239名となる。

2014年 - 週数不明2名あり。下表（2014年）とこの2名で合計216名となる。

	2011年	2012年	2013年	2014年	2015年
25週		1	1	-	-
26週	-	-	-	2	-
27週	-	-	-	-	1
28週		1	1	4	3
29週		2	4	4	2
30週		4	8	5	3
31週		10	5	7	4
32週		8	5	12	10
33週		11	9	22	13
34週		16	18	17	23
35週		19	28	27	33
36週		18	13	13	17
37週以上		112	122	127	104

◆ 出生時体重（例）

	2011年	2012年	2013年	2014年	2015年
500-749g	1	-	-	-	-
750-999g	1	3	2	4	2
1,000-1,249g	6	6	6	6	10
1,250-1,499g	8	11	21	10	10
1,500-1,749g	16	10	24	16	23
1,750-1,999g	21	27	20	31	35
2,000-2,249g	28	26	23	31	25
2,250-2,499g	22	26	31	25	27
2,500g以上	99	105	112	93	93

◆ 人工呼吸器管理症例

	2011年	2012年	2013年	2014年	2015年
入院数（例）	202	214	239	216	225
人工呼吸器管理症例数（例）	112	80	86	66	84
人工管理症例率（％）	55.4	37.4	36.0	30.6	37.3

◆ 出生週数別の日齢28日以後の生存数（例）

2013年 - 1名は生後3日目で死亡のため合計238名となる。

2014年 - 入院数は216名。しかし週数不明が2名、

1名は生後1日目で死亡のため、下表2014年の合計は213名となる。

	2013年（内訳）	2014年（内訳）	2015年（内訳）
26週	-（- / -）	100.0（2 / 2）	-（- / -）
27週	-（- / -）	-（- / -）	100.0（1 / 1）
28週	100.0（4 / 4）	100.0（3 / 3）	100.0（6 / 6）
29週	100.0（4 / 4）	100.0（2 / 2）	100.0（1 / 1）
30週	100.0（5 / 5）	100.0（3 / 3）	100.0（5 / 5）
31週	100.0（7 / 7）	100.0（4 / 4）	100.0（10 / 10）
32週	100.0（12 / 12）	100.0（10 / 10）	100.0（14 / 14）
33週	100.0（22 / 22）	100.0（13 / 13）	100.0（17 / 17）
34週	100.0（17 / 17）	100.0（23 / 23）	100.0（22 / 22）
35週	100.0（27 / 27）	97.0（32 / 33）	100.0（36 / 36）
36週	100.0（13 / 13）	100.0（17 / 17）	100.0（16 / 16）
37週以上	99.2（126 / 127）	100.0（104 / 104）	97.9（95 / 97）

内訳：各週数毎の生存数(例)/各週数毎の出生数(例)

◆ 出生体重別の日齢28日以後の生存数（例）

2013年 - 1名は生後3日目で死亡のため合計238名となる。

2014年 - 入院数は216名。1名は生後1日目で死亡のため合計215名となる。

	2013年（内訳）	2014年（内訳）	2015年（内訳）
750-999g	100.0（2 / 2）	100.0（4 / 4）	100.0（2 / 2）
1,000-1,249g	100.0（6 / 6）	83.3（5 / 6）	100.0（10 / 10）
1,250-1,499g	100.0（21 / 21）	100.0（10 / 10）	100.0（10 / 10）
1,500-1,749g	100.0（24 / 24）	100.0（16 / 16）	100.0（23 / 23）
1,750-1,999g	100.0（20 / 20）	100.0（31 / 31）	100.0（35 / 35）
2,000-2,249g	100.0（23 / 23）	100.0（31 / 31）	100.0（25 / 25）
2,250-2,499g	100.0（31 / 31）	100.0（25 / 25）	100.0（27 / 27）
2,500g以上	99.1（111 / 112）	100.0（93 / 93）	97.8（91 / 93）

内訳：各体重毎の生存数(例)/各体重毎の出生数(例)

◆ 新生児死亡数（例）

	2013年	2014年	2015年
早期新生児死亡数(日齢7日未満の死亡)	1	1	2
後期新生児死亡数(日齢7日以上、日齢28日未満の死亡)	-	-	-

◆ 死亡例一覧

性別	出生週数	出生体重	死亡日齢	病名
女	39週0日	2,958g	1日	重症新生児仮死
男	39週1日	2,948g	0日	完全大血管転位症

◆ 新生児搬送収容数（例）＜奈良県周産期医療情報システムより集計＞

2014年 - 79名のうち、2名は路上、自宅を含むため、病院からは実質77名

2015年 - 自宅1名含むため病院からは実質78名

	2008年	2009年	2010年	2011年	2012年	2013年	2014年	2015年
新生児搬送収容数	21	12	47	81	65	62	79	78

◆ 新生児搬送疾患名（例 重複あり）＜奈良県周産期医療情報システムより集計＞

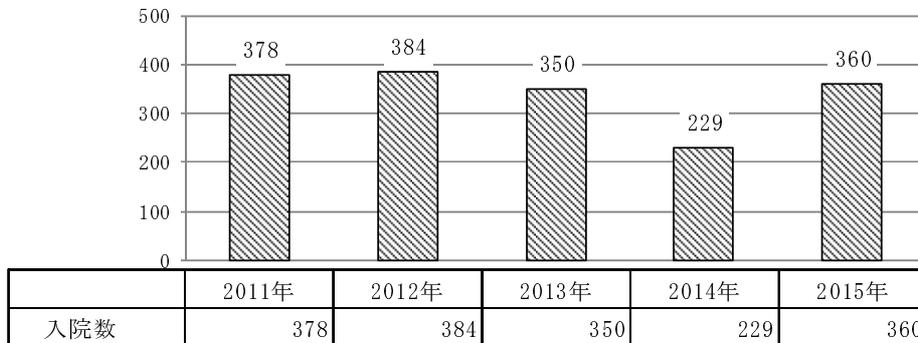
		2013	2014	2015
呼吸器疾患		37	51	37
内 訳	新生児一過性多呼吸	15	-	31
	呼吸障害	-	48	3
	新生児無呼吸発作	13	-	1
	新生児気胸、新生児緊張性気胸	1	-	1
	喉頭蓋嚢胞	-	-	1
	新生児肺出血	3	2	-
	胎便吸引症候群	4	1	-
	咽頭軟化症	1	-	-
心・循環器疾患		1	2	3
内 訳	新生児遷延性肺高血圧症	-	-	2
	完全大血管転位症	-	-	1
	両大血管右室起始症	-	1	-
	新生児血小板減少症	-	1	-
	動脈管開存症	1	-	-
消化管疾患		3	7	6
内 訳	哺乳不良	-	2	3
	新生児嘔吐症	1	3	1
	新生児メレナ	1	-	1
	新生児腸回転異常の疑い	-	-	1
	水様便	-	1	-
	腹部膨満	-	1	-
	胎便栓症候群	1	-	-
脳・神経疾患		-	1	3
内 訳	筋緊張	-	1	1
	新生児痙攣	-	-	1
	睡眠時ミオクローヌス	-	-	1

		2013	2014	2015
染色体異常 奇形症候群		2	-	2
内 訳	染色体異常	1	-	-
	口唇口蓋裂	1	-	1
	片側性唇顎口蓋裂	-	-	1
感染症		4	4	6
内 訳	感染症	4	3	5
	新生児細菌性髄膜炎	-	-	1
	新生児敗血症	-	1	-
その他		15	12	21
内 訳	低出生体重児	4	2	5
	極低出生体重児	-	-	2
	早産児	3	2	5
	重症新生児仮死	-	-	4
	新生児仮死	4	1	2
	低血糖	-	1	2
	高度インスリン低血糖症	-	-	1
	新生児黄疸	-	2	-
	発熱	-	2	-
	新生児脱水症	-	1	-
	C BW	-	1	-
	新生児ABO不適合溶血性疾患	2	-	-
	新生児高ビリルビン血症	1	-	-
新生児低体温症	1	-	-	

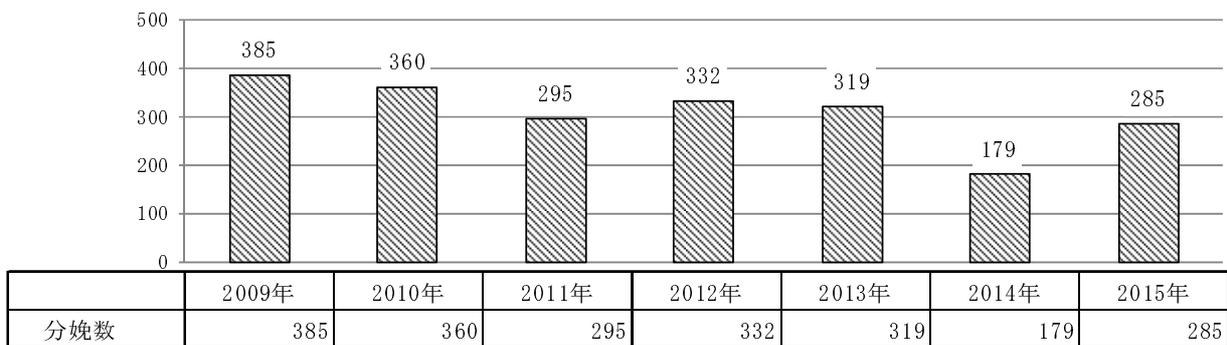
#### 4. 近畿大学医学部奈良病院

##### (1) 産科部門診療実績

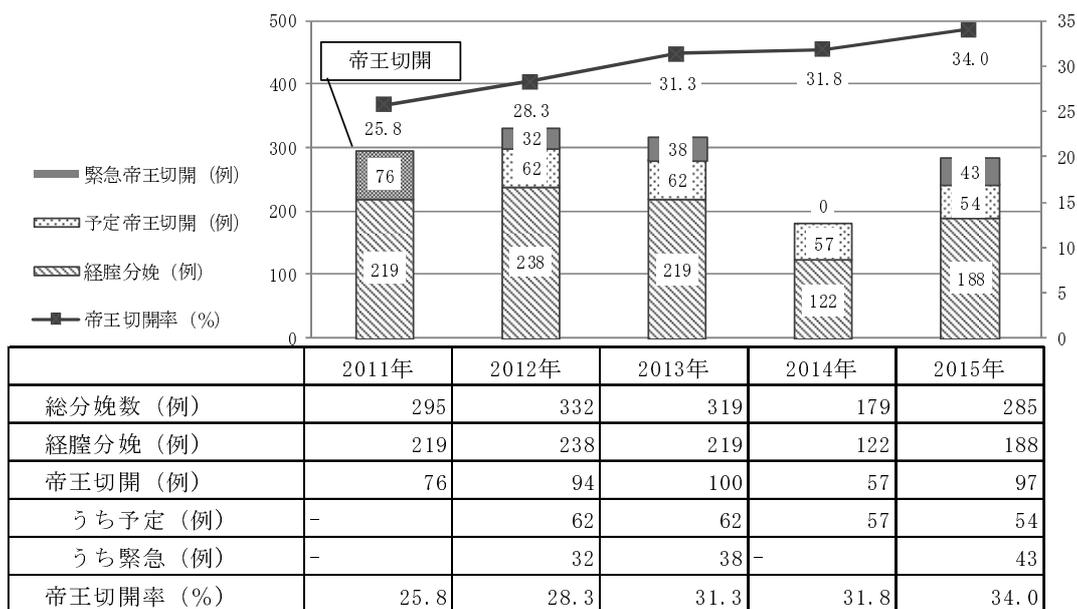
###### ◆ 入院数 (例)



###### ◆ 分娩数 (例)



###### ◆ 分娩様式



◆ 分娩週数（例 死産児は除く）

	2011年	2012年	2013年	2014年	2015年
23週	-	-	1	-	-
24週	-	-	-	-	-
25週	-	1	-	-	-
26週	-	-	-	-	-
27週	-	-	-	-	-
28週	-	-	-	-	-
29週	-	-	-	-	-
30週	-	-	-	1	-
31週	-	-	-	-	-
32週	1	-	-	1	3
33週	-	1	1	2	1
34週	-	1	2	1	4
35週	1	2	2	-	10
36週	4	8	8	1	15
37週	39	54	44	28	34
38週	46	75	77	48	78
39週	70	70	77	32	65
40週	91	80	67	45	58
41週	37	32	39	19	17
42週	-	2	1	1	-

◆ 出生体重（例 死産児は除く）

	2011年	2012年	2013年	2014年	2015年
500g未満	-	-	1	-	-
500-999g	-	1	-	-	-
1,000-1,499g	1	-	-	1	2
1,500-1,999g	1	2	3	3	6
2,000-2,499g	24	22	34	7	31
2,500g以上	264	307	281	168	246

◆ 出産時年齢（例）

	2011年	2012年	2013年	2014年	2015年
35歳未満	196	232	196	88	154
35-39歳	85	71	102	67	98
40-44歳	14	29	21	24	30
45歳以上	-	-	-	-	-

◆ 合併症妊娠（例）

	2011年	2012年	2013年	2014年	2015年
子宮筋腫	-	-	-	-	14
子宮筋腫（核出術後）	2	1	-	6	-
卵巣嚢腫（腫瘍）	-	-	1	-	13
子宮頸癌（含円錐切除後）	-	-	-	4	-
甲状腺機能亢進症	-	-	-	1	1
甲状腺機能低下症	-	-	-	1	6
糖尿病（含GDM）	1	-	-	5	12
喘息	-	-	-	1	11
ITP	-	-	-	-	2
自己免疫疾患	-	-	-	1	2
循環器疾患	-	-	-	-	4
ウイルス性肝炎（HA, HB, HCなど）	-	-	-	1	3
消化器疾患（虫垂炎、潰瘍性大腸炎など）	-	-	-	1	11

◆ 産科合併症（例 重複あり）

	2011年	2012年	2013年	2014年	2015年
切迫早産・前期破水	3	4	24	16	18
妊娠高血圧症候群	6	3	10	6	15
胎内胎児発育制限	1	-	-	9	9
多胎妊娠	-	-	3	1	6
前置胎盤	1	4	1	1	4
産後出血	4	1	-	-	3
常位胎盤早期剥離	-	5	1	-	2
HELLP症候群	-	-	-	-	1
低置胎盤	-	-	-	-	1
血液型不適合	-	-	-	-	1
羊水過多	-	-	-	1	-
胎児異常	-	-	-	11	2

◆ 産科手術他（例）

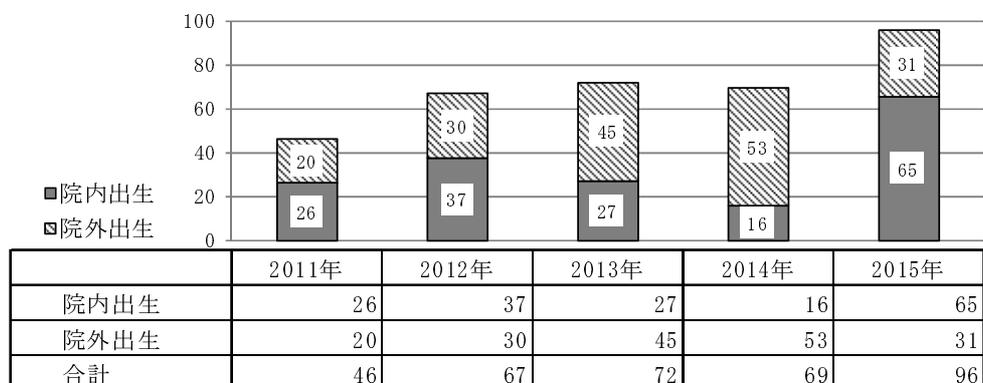
	2011年	2012年	2013年	2014年	2015年
子宮頸管縫縮術	-	1	1	1	1
卵巣嚢腫（腫瘍）摘出術	-	-	1	-	-

◆ 輸血治療症例（例）

	2011年	2012年	2013年	2014年	2015年
輸血治療症例数	-	1	-	-	-

(2) 新生児部門診療実績

◆ 入院数 (例)



◆ 入院時疾患名 (例)

その他は低出生体重児・黄疸など。

	2013年	2014年	2015年
呼吸器疾患	17	19	21
心・循環器疾患	18	12	6
消化管疾患	12	16	10
脳・神経疾患	-	2	2
外科疾患	6	4	10
染色体異常 奇形症候群	-	1	3
感染症	9	3	6
その他	10	12	38

◆ 出生週数 (例)

25週の見は大阪府立母子センターからの転院。

	2011年	2012年	2013年	2014年	2015年
22週未満	-	-	-	2	-
22週	-	-	-	-	-
23週	-	-	-	-	-
24週	-	-	-	-	-
25週	-	1	1	-	1
26週	-	-	-	-	-
27週	-	-	-	-	-
28週	-	-	1	-	-
29週	-	-	1	-	-
30週	-	-	-	1	-
31週	-	-	-	-	-
32週	-	-	2	1	2
33週	1	1	1	1	4
34週	1	1	1	1	5
35週	-	2	2	-	13
36週	5	8	6	1	15
37週以上	39	313	57	174	56

◆ 出生時体重（例）

	2011年	2012年	2013年	2014年	2015年
500g未満	-	1	-	2	-
500-749g	-	-	-	-	-
750-999g	-	-	1	-	1
1,000-1,249g	-	-	1	1	-
1,250-1,499g	-	-	3	-	3
1,500-1,749g	1	1	3	2	1
1,750-1,999g	2	1	-	1	7
2,000-2,249g	4	4	2	4	11
2,250-2,499g	6	18	17	4	21
2,500g以上	33	301	45	167	52

◆ 人工呼吸器管理症例

	2011年	2012年	2013年	2014年	2015年
入院数（例）	46	-	72	69	96
人工呼吸器管理症例数（例）	17	-	17	20	10
人工管理症例率（％）	37.0	-	23.6	29.0	10.4

◆ 外科疾患（心臓、眼科、脳外科など含む）

性別	出生週数	出生体重	疾患名	術式
男	32週	2,612g	先天性水腎症	経皮的腎瘻形成 左腎盂形成
男	37週	2,954g	全結腸型Hirschsprung病	腹腔鏡補助下根治術
男	37週	2,582g	小腸閉鎖症	小腸閉鎖根治術
男	36週	2,344g	嚥下障害	胃瘻造設術
男	39週	2,662g	先天性横隔膜ヘルニア	腹壁サイロ形成術
女	34週	2,170g	左水腎症	経皮的腎瘻形成
男	41週	3,390g	VSD・PH	VSD閉鎖術
男	38週	2,768g	低酸素性脳症	気管切開
女	36週	2,864g	VSD・PH	VSD閉鎖術
男	38週	2,880g	フロー四徴	BTシャント
女	37週	2,680g	Hirschsprung病	根治術
男	39週	3,156g	食道閉鎖症	胸腔鏡下根治術
			VSD・PH	VSD閉鎖術
			乳び胸	胸腔鏡下胸管結紮術
男	33週	1,785g	結腸閉鎖	人工肛門造設術
男	25週	796g	未熟児網膜症	レーザー

◆ 出生週数別の日齢28日以後の生存率 (%)

	2013年 (内訳)	2014年 (内訳)	2015年 (内訳)
22週未満	- ( - / - )	0 ( 0 / 2 )	- ( - / - )
22週	- ( - / - )	- ( - / - )	- ( - / - )
23週	- ( - / - )	- ( - / - )	- ( - / - )
24週	- ( - / - )	- ( - / - )	- ( - / - )
25週	100.0 ( 1 / 1 )	- ( - / - )	100.0 ( 1 / 1 )
26週	- ( - / - )	- ( - / - )	- ( - / - )
27週	- ( - / - )	- ( - / - )	- ( - / - )
28週	100.0 ( 1 / 1 )	- ( - / - )	- ( - / - )
29週	100.0 ( 1 / 1 )	- ( - / - )	- ( - / - )
30週	- ( - / - )	100.0 ( 1 / 1 )	- ( - / - )
31週	- ( - / - )	- ( - / - )	- ( - / - )
32週	100.0 ( 2 / 2 )	100.0 ( 1 / 1 )	100.0 ( 2 / 2 )
33週	100.0 ( 1 / 1 )	100.0 ( 1 / 1 )	100.0 ( 4 / 4 )
34週	100.0 ( 1 / 1 )	100.0 ( 1 / 1 )	80.0 ( 4 / 5 )
35週	100.0 ( 2 / 2 )	- ( - / - )	100.0 ( 13 / 13 )
36週	100.0 ( 6 / 6 )	100.0 ( 1 / 1 )	93.3 ( 14 / 15 )
37週以上	98.2 ( 56 / 57 )	100.0 ( 174 / 174 )	98.2 ( 55 / 56 )

内訳：各週数毎の生存数(例)/各週数毎の出生数(例)

◆ 出生体重別の日齢28日以後の生存率 (%)

	2013年 (内訳)	2014年 (内訳)	2015年 (内訳)
500g未満	- ( - / - )	0.0 ( 0 / 2 )	- ( - / - )
500-749g	- ( - / - )	- ( - / - )	- ( - / - )
750-999g	100.0 ( 1 / 1 )	0.0 ( 0 / 1 )	100.0 ( 1 / 1 )
1,000-1,249g	100.0 ( 1 / 1 )	- ( - / - )	- ( - / - )
1,250-1,499g	100.0 ( 3 / 3 )	- ( - / - )	33.3 ( 1 / 3 )
1,500-1,749g	100.0 ( 3 / 3 )	100.0 ( 2 / 2 )	100.0 ( 1 / 1 )
1,750-1,999g	- ( - / - )	100.0 ( 1 / 1 )	100.0 ( 7 / 7 )
2,000-2,249g	100.0 ( 2 / 2 )	100.0 ( 4 / 4 )	100.0 ( 11 / 11 )
2,250-2,499g	100.0 ( 17 / 17 )	100.0 ( 4 / 4 )	100.0 ( 21 / 21 )
2,500g以上	97.8 ( 44 / 45 )	100.0 ( 167 / 167 )	98.1 ( 51 / 52 )

内訳：各体重毎の生存数(例)/各体重毎の出生数(例)

◆ 新生児死亡数 (例)

	H25	H26	H27
早期新生児死亡数(日齢7日未満の死亡)	-	1	1
後期新生児死亡数(日齢7日以上、日齢28日未満の死亡)	1	-	2

◆ 死亡例一覧

性別	出生週数	出生体重	死亡日齢	病名
男	39週	2,662g	8日	先天性横隔膜ヘルニア
女	36週	1,454g	2日	敗血症
女	34週	1,446g	109日	

◆ 新生児搬送収容数（例）＜奈良県周産期医療情報システムより集計＞

	2008年	2009年	2010年	2011年	2012年	2013年	2014年	2015年
新生児搬送収容数	16	18	5	6	7	20	15	20

◆ 新生児搬送疾患名（例 重複あり）＜奈良県周産期医療情報システムより集計＞

		2013	2014	2015
呼吸器疾患		7	8	9
内 訳	呼吸障害	6	8	8
	新生児一過性多呼吸	1	-	1
染色体異常 奇形症候群		4	1	3
内 訳	染色体異常	1	-	-
	ダウン症の疑い	3	1	2
	口唇口蓋裂	-	-	1
感染症		1	0	1
	感染症	1	-	1
その他		6	3	2
内 訳	発熱	-	1	1
	新生児仮死	2	-	1
	チアノーゼ	1	1	-
	日令2からのタール便持続	-	1	-
	黄疸	2	-	-
	活気不良	1	-	-

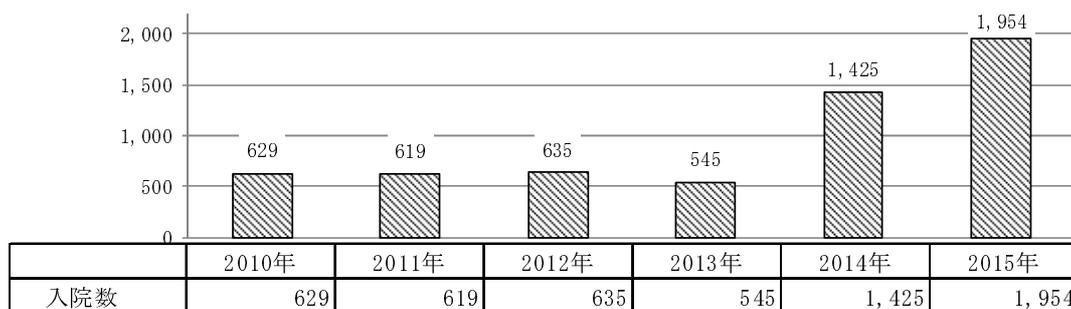
		2013	2014	2015
心・循環器疾患		6	3	1
内 訳	ファロー四徴症	-	-	1
	心雑音	3	1	-
	不整脈	-	1	-
	単心室	-	1	-
	心疾患	1	-	-
	心室中隔欠損（VSD）	1	-	-
	心内膜症欠損	1	-	-
消化管疾患		5	4	7
内 訳	胆汁性嘔吐	2	-	2
	血性嘔吐	-	-	1
	腹部膨満	-	2	1
	嘔吐	-	1	1
	新生児メレナ	-	-	1
	鎖腸	-	-	1
	血便	-	1	-
	哺乳不良	2	-	-
	腹壁破裂	1	-	-

## 5. 天理よろづ相談所病院

### (1) 産科部門診療実績

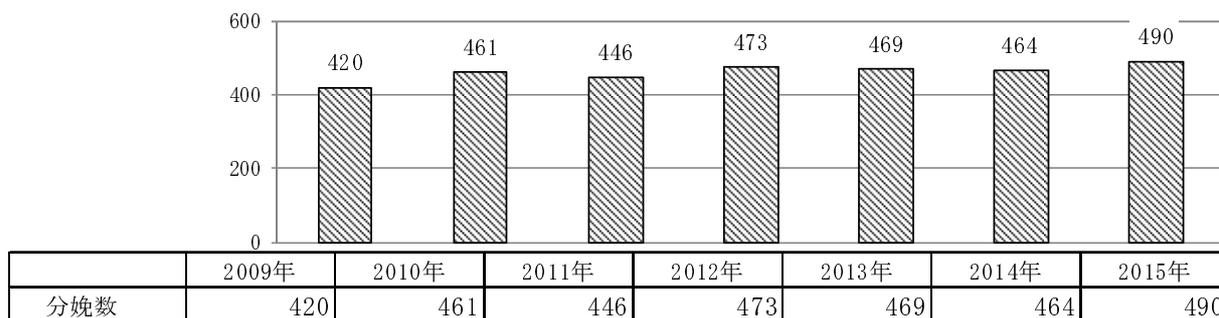
#### ◆ 入院数 (例)

2014年度より産科・婦人科合同で1病棟となったため、産科のみの年間入院数は算出不可。そのため2014年からは産科・婦人科を合わせた件数を掲載している。

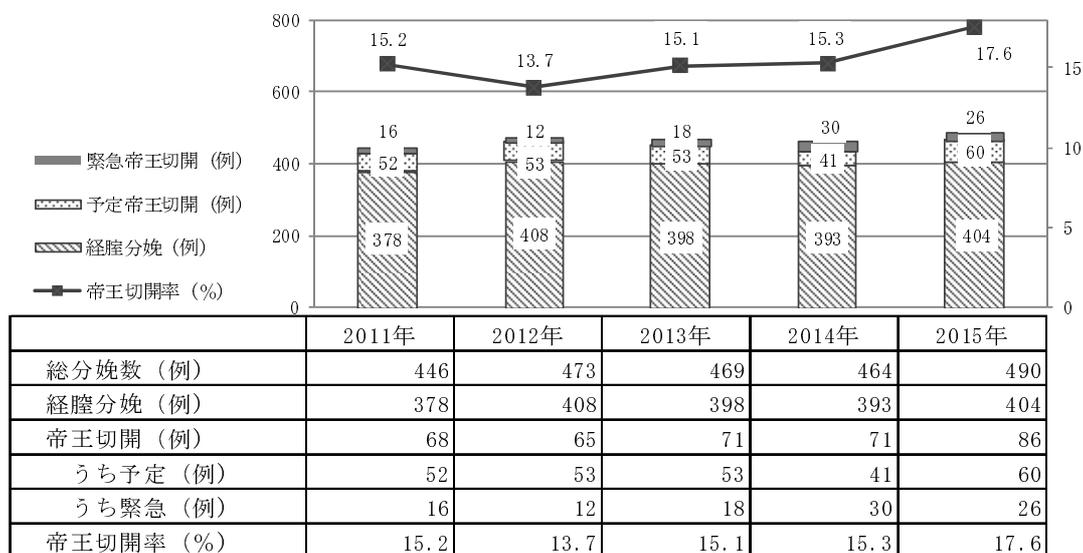


#### ◆ 分娩数 (例)

死産例含む。双胎は2例としてカウント。



#### ◆ 分娩様式



◆ 分娩週数（例 死産児は除く）

	2011年	2012年	2013年	2014年	2015年
34週	2	-	1	-	1
35週	5	6	8	10	7
36週	19	8	9	15	15
37週	76	83	38	56	39
38週	128	118	151	121	138
39週	123	163	146	137	151
40週	83	77	92	99	101
41週	11	18	21	21	28
42週	-	-	-	-	1

◆ 出生体重（例 死産児は除く）

	2011年	2012年	2013年	2014年	2015年
1,500-1,999g	2	4	7	4	2
2,000-2,499g	41	46	46	41	46
2,500g以上	403	423	413	414	433

◆ 出産時年齢（例）

	2011年	2012年	2013年	2014年	2015年
35歳未満	329	355	337	343	345
35-39歳	96	88	120	96	118
40-44歳	19	30	11	25	27
45歳以上	2	-	1	-	-

◆ 合併症妊娠（例）

該当項目の統計を当院にて取っていない場合は（-）としています。※甲状腺機能異常は合わせて16例

	2011年	2012年	2013年	2014年	2015年
子宮筋腫（核出術後）	-	-	4	3	6
卵巣嚢腫（腫瘍）	-	2	1	-	-
子宮頸癌（含円錐切除後）	-	3	1	-	-
子宮奇形	-	1	3	1	-
甲状腺機能亢進症	11	17	15	13	16
甲状腺機能低下症	4	-	-	6	-
糖尿病（含GDM）	16	15	28	27	6
喘息	11	16	14	13	15
本態性高血圧	-	-	1	1	-
ITP	2	1	-	1	-
自己免疫疾患	4	5	4	6	6
循環器疾患	3	12	3	6	2
精神科疾患（含てんかん）	4	6	10	10	3
ウイルス性肝炎（HA, HB, HCなど）	-	2	1	-	-
消化器疾患（虫垂炎、潰瘍性大腸炎など）	-	-	-	1	-

◆ 産科合併症（例 重複あり）

該当項目の統計を当院にて取っていない場合は（-）としています。

- ・「常位胎盤早期剥離」の項目は部分胎盤早期剥離を含む。
- ・「産後出血」は定義不明なため(-)としています。

	2011年	2012年	2013年	2014年	2015年
切迫早産・前期破水	139	128	132	142	152
妊娠高血圧症候群	12	18	18	18	16
胎内胎児発育制限	11	34	11	7	10
多胎妊娠	2	6	6	3例（6人）	5
前置胎盤	2	1	1	-	2
産後出血	111	101	115	96	-
常位胎盤早期剥離	11	1	1	4	4
HELLP症候群	-	1	-	-	-
低置胎盤	-	-	3	2	1
羊水過多	-	-	2	-	-
羊水過小	-	-	-	4	4
その他	5	-	-	-	-

◆ 産科手術他（例）

産道血腫除去術については当院で統計をとっていません。

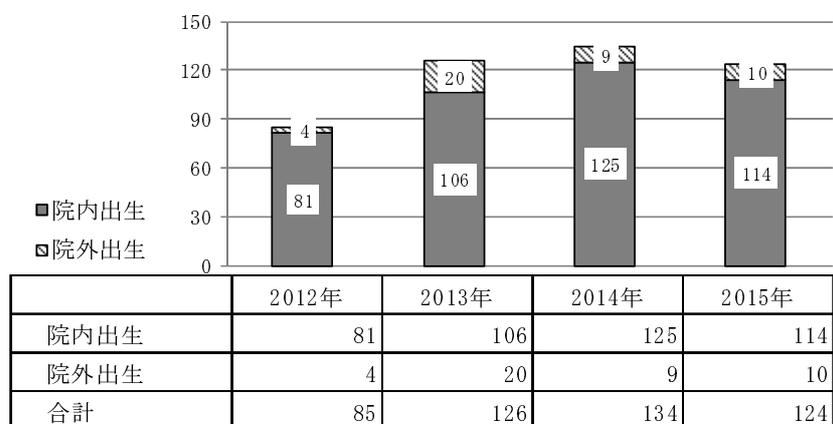
	2011年	2012年	2013年	2014年	2015年
子宮頸管縫縮術	9	4	7	6	12
卵巣嚢腫（腫瘍）摘出術	3	2	1	-	-
産道血腫除去術	-	1	-	-	-
子宮動脈塞栓術	-	-	-	1	1
子宮摘出術	-	-	-	2	-

◆ 輸血治療症例（例）

	2011年	2012年	2013年	2014年	2015年
輸血治療症例数	1	-	3	3	1

(2) 新生児部門診療実績

◆ 入院数 (例)



◆ 入院時疾患名 (例)

- ・心疾患のうち2名がダウン症（染色体異常に記載せず）
- ・声帯浮腫挿管困難と多発奇形はその他に（呼吸器疾患に入れず）

	2013年	2014年	2015年
呼吸器疾患	34	47	82
心・循環器疾患	7	5	4
消化管疾患	10	3	5
神経疾患	8	13	5
染色体異常 奇形症候群	2	1	2
感染症	12	32	2
その他	53	33	24

◆ 出生週数 (例)

	2012年	2013年	2014年	2015年
26週	-	1	-	-
27週	-	-	-	-
28週	-	-	-	-
29週	-	-	-	-
30週	-	1	-	-
31週	-	-	-	-
32週	-	-	-	-
33週	-	-	-	-
34週	-	1	-	1
35週	4	9	11	6
36週	4	5	9	7
37週以上	77	109	114	110

◆ 出生時体重（例）

	2012年	2013年	2014年	2015年
500g未満	-	1	-	-
500-749g	-	-	-	-
750-999g	-	-	-	-
1,000-1,249g	-	-	-	-
1,250-1,499g	-	1	-	-
1,500-1,749g	1	1	-	-
1,750-1,999g	3	5	4	3
2,000-2,249g	10	8	5	10
2,250-2,499g	10	15	18	16
2,500g以上	61	95	107	95

◆ 人工呼吸器管理症例

- ・気管挿管し院外搬送した4症例を除く
- ・鼻マスク陽圧換気した36例も除く

	2012年	2013年	2014年	2015年
入院数（例）	85	126	134	124
人工呼吸器管理症例数（例）	2	0	0	0
人工管理症例率（%）	2.4	0.0	0.0	0.0

◆ 外科疾患（心臓、眼科、脳外科など含む）

性別	出生週数	出生体重	疾患名	術式
男	37週	2,070g	ファロー四徴	BTシャント
女	37週	3,020g	ファロー四徴	BTシャント

◆ 出生週数別の日齢28日以後の生存数（例）

	2013年（内訳）	2014年（内訳）	2015年（内訳）
26週	0.0（0 / 1）	-（- / -）	-（- / -）
27週	-（- / -）	-（- / -）	-（- / -）
28週	-（- / -）	-（- / -）	-（- / -）
29週	-（- / -）	-（- / -）	-（- / -）
30週	100.0（1 / 1）	-（- / -）	-（- / -）
31週	-（- / -）	-（- / -）	-（- / -）
32週	-（- / -）	-（- / -）	-（- / -）
33週	-（- / -）	-（- / -）	-（- / -）
34週	100.0（1 / 1）	-（- / -）	100.0（1 / 1）
35週	100.0（9 / 9）	100.0（11 / 11）	100.0（6 / 6）
36週	100.0（5 / 5）	100.0（9 / 9）	100.0（7 / 7）
37週以上	100.0（109 / 109）	100.0（114 / 114）	100.0（110 / 110）

内訳：各週数毎の生存数(例)/各週数毎の出生数(例)

◆ 出生体重別の日齢28日以後の生存数（例）

	2013年（内訳）	2014年（内訳）	2015年（内訳）
500g未満	0.0（0 / 1）	-（- / -）	-（- / -）
500-749g	-（- / -）	-（- / -）	-（- / -）
750-999g	-（- / -）	-（- / -）	-（- / -）
1,000-1,249g	-（- / -）	-（- / -）	-（- / -）
1,250-1,499g	100.0（1 / 1）	-（- / -）	-（- / -）
1,500-1,749g	100.0（1 / 1）	-（- / -）	-（- / -）
1,750-1,999g	100.0（5 / 5）	100.0（4 / 4）	100.0（3 / 3）
2,000-2,249g	100.0（8 / 8）	100.0（5 / 5）	100.0（10 / 10）
2,250-2,499g	100.0（15 / 15）	100.0（18 / 18）	100.0（16 / 16）
2,500g以上	100.0（95 / 95）	100.0（107 / 107）	100.0（95 / 95）

内訳：各体重毎の生存数(例)/各体重毎の出生数(例)

◆ 新生児死亡数（例）

	H25	H26	H27
早期新生児死亡数(日齢7日未満の死亡)	1	-	-
後期新生児死亡数(日齢7日以上、日齢28日未満の死亡)	-	-	-

◆ 新生児搬送収容数（例）

当院の記録では搬送受け入れ 10 例

	2008年	2009年	2010年	2011年	2012年	2013年	2014年	2015年
新生児搬送収容数	1	-	-	-	-	22	9	10

◆ 新生児搬送疾患名（例 重複あり）

入院後の診断の変化

呼吸障害4例 → 新生児呼吸障害 3例、うち1例は1982g 残る1例はダウン症に伴うTAM

哺乳不良例 → 37w 2006g

心疾患症例はいずれも搬送前診断通り

チアノーゼの例 → 哺乳不良・脱水傾向による一過性呼吸適応障害と判断

	2013	2014	2015
呼吸器疾患	6	4	4
呼吸障害	6	4	4
脳・神経疾患	2	-	-
痙攣うたがい	2	-	-
感染症	3	-	-
感染	3	-	-
その他	4	-	1
内訳			
チアノーゼ	-	-	1
低体重、双子	3	-	-
湿疹(水疱)	1	-	-

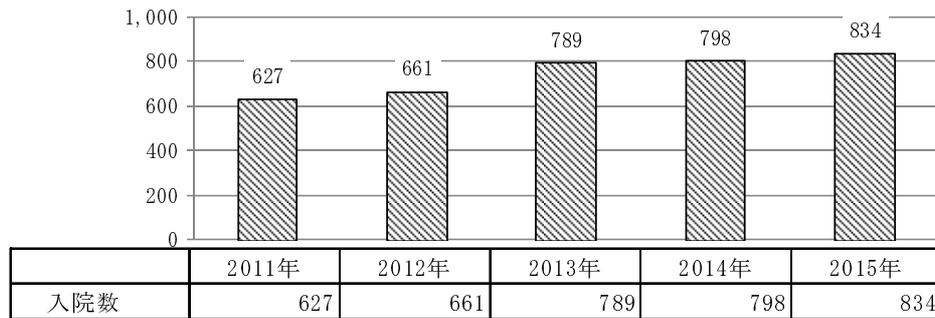
	2013	2014	2015
心・循環器疾患	3	2	3
内訳			
ファロー	-	-	2
VSD	-	-	1
徐脈発作	-	1	-
不整脈	-	1	-
心疾患疑い	2	-	-
心雑音	1	-	-
消化管疾患	2	3	2
内訳			
哺乳不良	1	3	1
メレナ疑い	1	-	-
血性嘔吐	-	-	1

## 6. 市立奈良病院

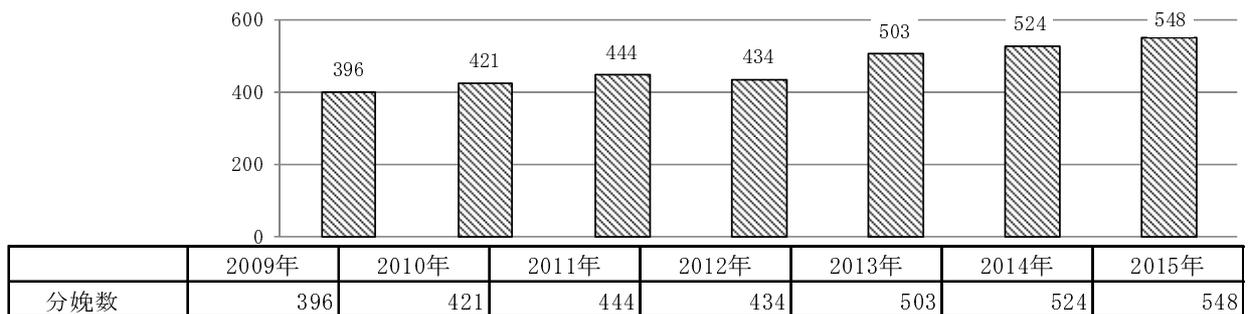
### (1) 産科部門診療実績

#### ◆ 入院数 (例)

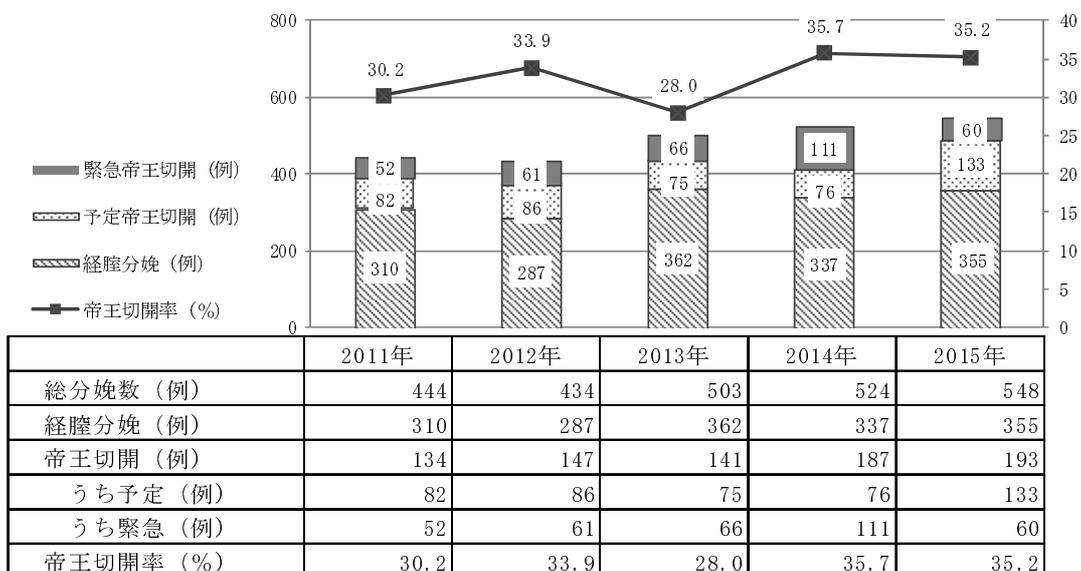
入院 DPC 情報より、ICD コードの 000-099 妊娠、分娩及び産じょくが主病名で入院した患者数を入力しています。



#### ◆ 分娩数 (例)



#### ◆ 分娩様式



◆ 分娩週数（例 死産児は除く）

	2011年	2012年	2013年	2014年	2015年
35週	1	1	1	3	-
36週	13	14	13	25	17
37週	67	44	46	52	70
38週	100	121	140	132	157
39週	108	125	132	142	137
40週	110	96	128	113	136
41週	34	27	40	39	30
42週	1	2	1	-	-

◆ 出生体重（例 死産児は除く）

	2011年	2012年	2013年	2014年	2015年
1,500-1,999g	-	-	-	1	2
2,000-2,499g	27	20	35	26	34
2,500g以上	409	410	466	485	511

◆ 出産時年齢（例）

	2011年	2012年	2013年	2014年	2015年
35歳未満	328	324	391	383	394
35-39歳	80	85	89	108	121
40-44歳	15	21	21	23	33
45歳以上	-	-	-	1	-

◆ 合併症妊娠（例）

2014年から、日産婦のデータベースより抽出したため、症例数が大幅に増加しています。2014年以前では、合併症妊婦を手作業で集計していたため、正確にカウントできていなかったと考えられます。

	2012年	2013年	2014年	2015年
子宮筋腫	8	7	25	20
子宮筋腫（核出術後）	-	-	5	2
卵巣嚢腫（腫瘍）	1	1	9	11
子宮頸癌（含円錐切除後）	4	1	1	8
子宮奇形	-	-	-	2
甲状腺機能亢進症	1	2	6	5
甲状腺機能低下症	1	2	8	7
糖尿病（含GDM）	5	5	10	19
喘息	5	1	12	11
慢性腎炎	-	-	-	1
本態性高血圧	1	-	2	3
自己免疫疾患	-	-	-	2
循環器疾患	1	-	1	2
精神科疾患（含てんかん）	-	-	1	7
ウイルス性肝炎（HA, HB, HCなど）	-	-	2	3
消化器疾患（虫垂炎、潰瘍性大腸炎など）	1	-	-	3

◆ 産科合併症（例 重複あり）

	2011年	2012年	2013年	2014年	2015年
切迫早産・前期破水	-	58	73	63	61
妊娠高血圧症候群	1	10	13	28	16
胎内胎児発育制限	2	11	28	18	19
多胎妊娠	2	-	-	-	1
産後出血	3	17	26	14	12
常位胎盤早期剥離	1	1	-	2	1
HELLP症候群	-	-	-	4	-
低置胎盤	-	-	-	1	3
血液型不適合	-	-	-	7	6
羊水過多	-	-	-	-	1
羊水過小	-	-	-	5	6
胎児異常	-	-	-	1	1
その他	-	-	-	3	-

◆ 産科手術他（例）

	2011年	2012年	2013年	2014年	2015年
子宮頸管縫縮術	5	5	2	8	6
卵巣嚢腫（腫瘍）摘出術	3	3	1	-	1
産道血腫除去術	2	2	1	1	2
子宮動脈塞栓術	1	1	-	2	1
子宮摘出術	-	-	-	-	1

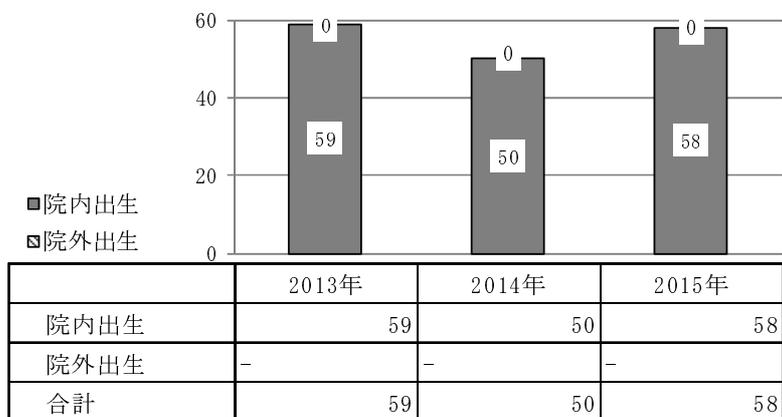
◆ 輸血治療症例（例）

	2011年	2012年	2013年	2014年	2015年
輸血治療症例数	2	2	2	2	3

(2) 新生児部門診療実績

◆ 入院数 (例)

出生後新生児搬送で転院 (当院入院には含まず) …奈良医大 2例、総合医療センター 5例



◆ 入院時疾患名 (例)

その他の内 新生児黄疸 27例、低血糖 4例、その他 8例

	2013年	2014年	2015年
呼吸器疾患	8	18	12
消化管疾患	4	1	5
外科疾患	1	-	-
感染症	5	1	2
その他	41	30	39

◆ 出生週数 (例)

	2013年	2014年	2015年
35週	1	1	-
36週	5	11	8
37週以上	53	38	50

◆ 出生時体重 (例)

	2013年	2014年	2015年
1,500g～1,749g	-	1	-
1,750g～1,999g	-	-	2
2,000g～2,249g	5	2	4
2,250g～2,499g	4	6	6
2,500g以上	50	41	46

## 7. 県内分娩取扱病院

### (1) 大和郡山病院

#### ◆ 入院数 (例)

	2014年	2015年
入院数	563	530

#### ◆ 分娩様式

	2014年	2015年
総分娩数 (例)	433	439
経膈分娩 (例)	358	364
帝王切開 (例)	77	73
うち予定 (例)	51	44
うち緊急 (例)	26	29
帝王切開率 (%)	17.8	16.6

#### ◆ 分娩週数 (例 死産児は除く)

	2014年	2015年
35週	1	3
36週	7	3
37週	45	44
38週	102	88
39週	120	131
40週	131	117
41週	29	39

#### ◆ 出生体重 (例 死産児は除く)

	2014年	2015年
1,500-1,999g	2	1
2,000-2,499g	26	22
2,500g以上	407	402

#### ◆ 出産時年齢 (例)

	2014年	2015年
35歳未満	326	308
35-39歳	96	98
40-44歳	18	23

#### ◆ 合併症妊娠 (例)

	2014年	2015年
子宮筋腫	3	2
子宮筋腫(核出術後)	2	6
卵巣嚢腫(腫瘍)	2	-
甲状腺機能亢進症	1	-
甲状腺機能低下症	2	1
糖尿病(含GDM)	3	1
喘息	4	2
本態性高血圧	1	1
ウイルス性肝炎(HA, HB, HC など)	-	1
消化器疾患(虫垂炎、潰瘍 性大腸炎など)	1	3

#### ◆ 産科合併症 (例 重複あり)

	2014年	2015年
切迫早産・前期破水	104	99
妊娠高血圧症候群	7	11
胎内胎児発育制限	5	3
多胎妊娠	2	2
前置胎盤	-	1
産後出血	3	-
常位胎盤早期剥離	1	-
HELLP症候群	-	1
低置胎盤	-	1
血液型不適合	5	1
胎児異常	-	5

#### ◆ 産科手術他 (例)

	2014年	2015年
子宮頸管縫縮術	7	3
卵巣嚢腫(腫瘍)摘出術	2	-
産道血腫除去術	2	1

#### ◆ 輸血治療症例 (例)

	2014年	2015年
輸血治療症例	1	-

(2) 大和高田市立病院

◆ 入院数 (例)

	2014年	2015年
入院数	1,296	807

◆ 分娩様式

	2014年	2015年
総分娩数 (例)	655	616
経膣分娩 (例)	499	447
帝王切開 (例)	156	169
うち予定 (例)	71	73
うち緊急 (例)	85	96
帝王切開率 (%)	23.8	27.4

◆ 分娩週数 (例 死産児は除く)

	2014年	2015年
35週	3	2
36週	23	14
37週	63	61
38週	166	138
39週	205	172
40週	172	193
41週	22	30

◆ 出生体重 (例 死産児は除く)

	2014年	2015年
1,500-1,999g	1	-
2,000-2,499g	65	51
2,500g以上	588	563

◆ 出産時年齢 (例)

	2014年	2015年
35歳未満	507	475
35-39歳	120	116
40-44歳	27	24
45歳以上	-	1

◆ 合併症妊娠 (例)

	2014年	2015年
子宮筋腫	5	4
卵巣嚢腫 (腫瘍)	-	8
子宮頸癌 (含円錐切除後)	4	-
甲状腺機能亢進症	2	-
甲状腺機能低下症	4	-
糖尿病 (含GDM)	18	9
喘息	4	2
慢性腎炎	2	-
循環器疾患	-	2
精神科疾患 (含てんかん)	1	-
ウイルス性肝炎 (HA, HB, HC など)	4	2
消化器疾患 (虫垂炎、潰瘍性大腸炎など)	3	1

◆ 産科合併症 (例 重複あり)

	2014年	2015年
切迫早産・前期破水	41	65
妊娠高血圧症候群	12	21
胎内胎児発育制限	10	8
多胎妊娠	4	4
前置胎盤	2	1
産後出血	40	29
常位胎盤早期剥離	5	3
低置胎盤	2	2
血液型不適合	4	-
羊水過小	4	1
胎児異常	1	25

◆ 産科手術他 (例)

	2014年	2015年
産道血腫除去術	-	2
その他	-	56

◆ 輸血治療症例 (例)

	2014年	2015年
輸血治療症例	2	4

(3) 高井病院

◆ 入院数 (例)

	2014年	2015年
入院数	60	96

◆ 分娩様式

	2014年	2015年
総分娩数 (例)	14	71
経膈分娩 (例)	13	49
帝王切開 (例)	1	22
うち予定 (例)	1	14
うち緊急 (例)	-	8
帝王切開率 (%)	7.1	30.0

◆ 分娩週数 (例 死産児は除く)

	2014年	2015年
35週	-	1
36週	-	2
37週	1	12
38週	7	13
39週	1	16
40週	3	21
41週	2	5

◆ 出生体重 (例 死産児は除く)

	2014年	2015年
2,000-2,499g	-	7
2,500g以上	14	63

◆ 出産時年齢 (例)

	2014年	2015年
35歳未満	10	59
35-39歳	3	11
40-44歳	1	1

◆ 産科合併症 (例 重複あり)

	2014年	2015年
切迫早産・前期破水	-	7
妊娠高血圧症候群	-	1
胎内胎児発育制限	-	1

◆ 産科手術他 (例)

	2014年	2015年
卵巣嚢腫(腫瘍)摘出術	5	-
子宮摘出術	5	-

(4) 桜井病院

◆ 入院数 (例)

	2014年	2015年
入院数	688	586

◆ 分娩様式

	2014年	2015年
総分娩数 (例)	460	432
経膣分娩 (例)	400	369
帝王切開 (例)	60	63
うち予定 (例)	42	43
うち緊急 (例)	18	20
帝王切開率 (%)	13.0	14.5

◆ 分娩週数 (例 死産児は除く)

	2014年	2015年
35週未満	-	1
35週	-	-
36週	7	5
37週	68	62
38週	70	74
39週	123	145
40週	144	102
41週	48	42
42週	-	1

◆ 出生体重 (例 死産児は除く)

	2014年	2015年
2,000-2,499g	17	17
2,500g以上	443	415

◆ 出産時年齢 (例)

	2014年	2015年
35歳未満	360	344
35-39歳	87	78
40-44歳	13	10

◆ 合併症妊娠 (例)

	2014年	2015年
子宮筋腫	9	10
子宮筋腫(核出術後)	-	1
卵巣嚢腫(腫瘍)	3	6
子宮頸癌(含円錐切除後)	1	2
甲状腺機能亢進症	4	4
甲状腺機能低下症	5	7
糖尿病(含GDM)	3	3
喘息	2	-
精神科疾患(含てんかん)	1	-
ウイルス性肝炎(HA, HB, HCなど)	2	-
消化器疾患(虫垂炎、潰瘍性大腸炎など)	1	-
その他	12	-

◆ 産科合併症 (例 重複あり)

	2014年	2015年
切迫早産・前期破水	7	3
妊娠高血圧症候群	5	3
胎内胎児発育制限	6	-
産後出血	8	11
常位胎盤早期剥離	5	5
低置胎盤	1	4
血液型不適合	-	6
胎児異常	5	8

◆ 産科手術他 (例)

	2014年	2015年
子宮頸管縫縮術	-	1
卵巣嚢腫(腫瘍)摘出術	-	10

(5) 奈良県西和医療センター

◆ 入院数 (例)

産婦人科で入院した件数

	2015年
入院数	137

◆ 合併症妊娠 (例)

	2015年
子宮筋腫	1
子宮頸癌(含円錐切除後)	1
甲状腺機能低下症	2

◆ 分娩様式

	2015年
総分娩数 (例)	37
経膈分娩 (例)	28
帝王切開 (例)	9
うち予定 (例)	6
うち緊急 (例)	3
帝王切開率 (%)	24.3

◆ 産科合併症 (例 重複あり)

	2015年
産後出血	9

◆ 分娩週数 (例 死産児は除く)

	2015年
37週	7
38週	7
39週	11
40週	11
41週	1

◆ 出生体重 (例 死産児は除く)

	2015年
2,000-2,499g	1
2,500g以上	36

◆ 出産時年齢 (例)

	2015年
35歳未満	29
35-39歳	4
40-44歳	4

(6) 生駒市立病院

※H27.6.1(開設日)～H27.12.31のデータ

◆ 入院数 (例)

	2015年
入院数	67

◆ 分娩様式

	2015年
総分娩数 (例)	22
経膈分娩 (例)	18
帝王切開 (例)	4
うち予定 (例)	2
うち緊急 (例)	2
帝王切開率 (%)	18.0

◆ 分娩週数 (例 死産児は除く)

	2015年
38週	9
39週	8
40週	4
41週	1

◆ 出生体重 (例 死産児は除く)

	2015年
2,000-2,499g	1
2,500g以上	21

◆ 出産時年齢 (例)

	2015年
35歳未満	15
35-39歳	4
40-44歳	3

◆ 産科合併症 (例 重複あり)

	2015年
切迫早産・前期破水	1
妊娠高血圧症候群	1
前置胎盤	1

◆ 産科手術他 (例)

	2015年
卵巣嚢腫(腫瘍)摘出術	3
子宮摘出術	7

## 8. 県内分娩取扱診療所

### ◆ 入院数（例）

	2015年
入院数	2,405

### ◆ 分娩様式

	2015年
総分娩数	5,830
経膈分娩	4,949
帝王切開	881
うち予定	538
うち緊急	343
帝王切開率（%）	15.1

### ◆ 分娩週数（例 死産児は除く）

	2015年
35週未満	3
35週	15
36週	98
37週	458
38週	1,172
39週	1,800
40週	1,660
41週	536
42週	29
42週以上	2

### ◆ 出生体重（例 死産児は除く）

	2015年
1,500-1,999g	10
2,000-2,499g	280
2,500g以上	5,163

### ◆ 出産時年齢（例）

	2015年
35歳未満	4,118
35-39歳	1,158
40-44歳	180
45歳以上	2

### ◆ 合併症妊娠（例）

	2015年
子宮筋腫	58
子宮筋腫（核出術後）	18
卵巣嚢腫（腫瘍）	26
子宮頸癌（含円錐切除後）	13
子宮奇形	3
甲状腺機能亢進症	13
甲状腺機能低下症	21
糖尿病（含GDM）	9
喘息	27
本態性高血圧	3
自己免疫疾患	1
循環器疾患	3
精神科疾患（含てんかん）	16
ウイルス性肝炎（HA, HB, HCなど）	13
消化器疾患（虫垂炎、潰瘍性大腸炎など）	8
その他	1

◆ 産科合併症（例 重複あり）

	2015年
切迫早産・前期破水	268
妊娠高血圧症候群	84
胎内胎児発育制限	41
多胎妊娠	2
前置胎盤	3
産後出血	168
常位胎盤早期剥離	8
HELLP症候群	3
低置胎盤	5
血液型不適合	18
羊水過多	11
羊水過小	26
胎児異常	24
その他	8

◆ 産科手術他（例）

	2015年
子宮頸管縫縮術	23
卵巣嚢腫(腫瘍)摘出術	7
産道血腫除去術	11
その他	5

◆ 輸血治療症例（例）

	2015年
輸血治療症例	14

## 9. 県内分娩取扱助産所

### ◆ 入院数（例）

	2015年
入院数	238

### ◆ 分娩様式

	2015年
総分娩数	238
経膈分娩	238
帝王切開	-

### ◆ 分娩週数（例 死産児は除く）

	2015年
37週	14
38週	35
39週	94
40週	87
41週	7
42週	1

### ◆ 出生体重（例 死産児は除く）

	2015年
2,000-2,499g	1
2,500g以上	237

### ◆ 出産時年齢（例）

	2015年
35歳未満	183
35-39歳	48
40-44歳	7

### ◆ 合併症妊娠（例）

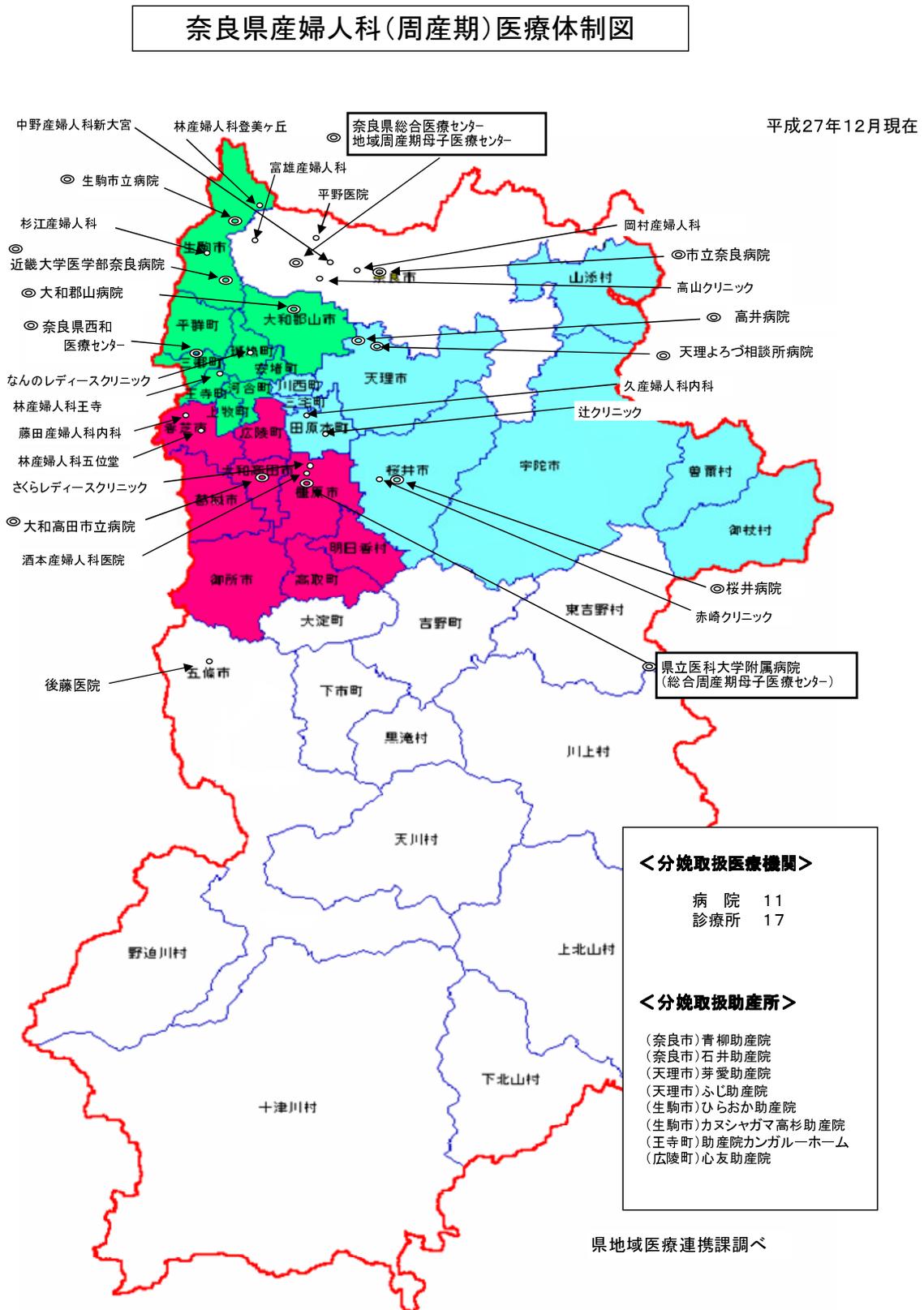
	2015年
子宮筋腫	3
甲状腺機能亢進症	1
精神科疾患(含てんかん)	1

### ◆ 産科合併症（例 重複あり）

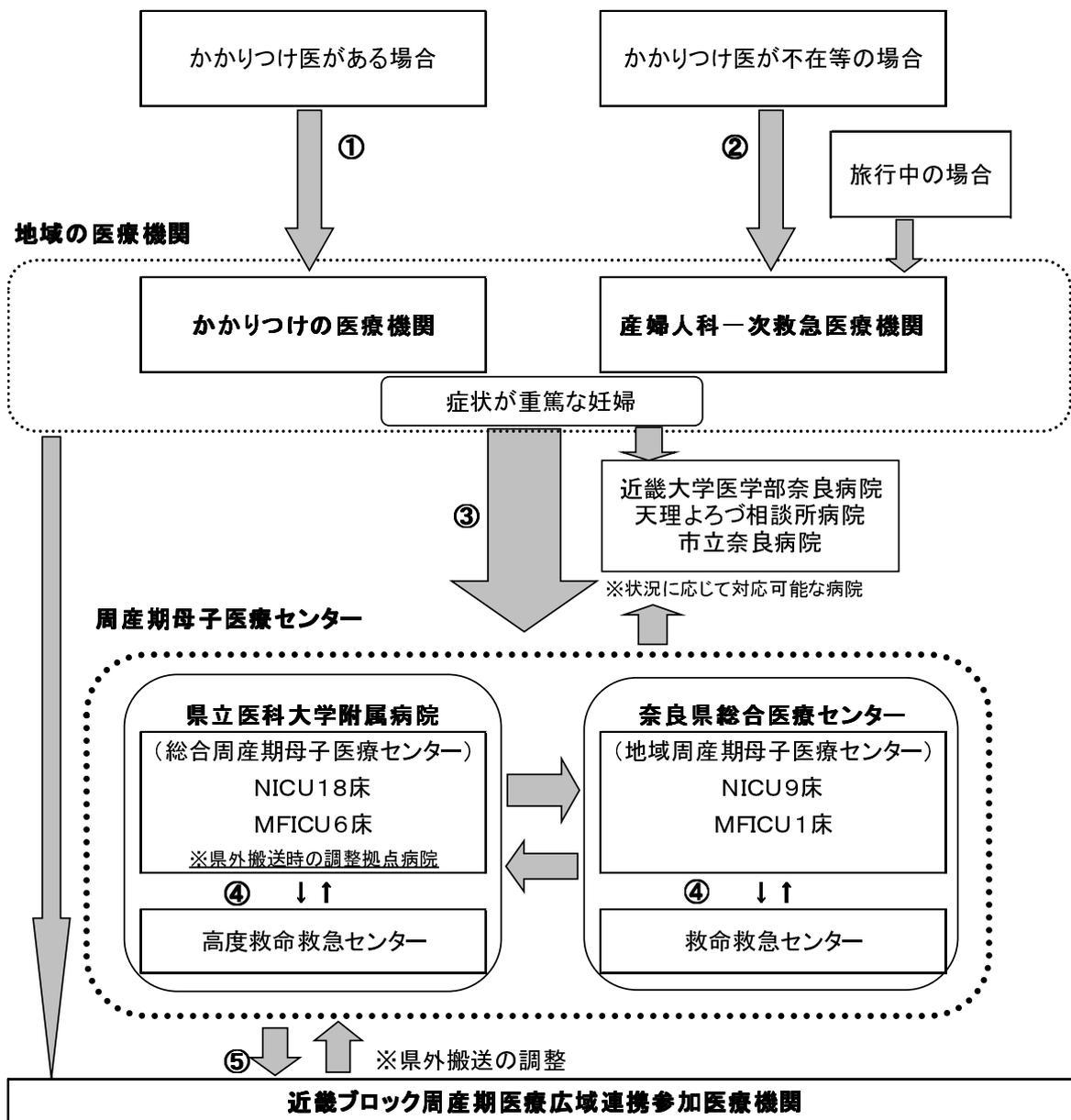
	2015年
切迫早産・前期破水	8
胎内胎児発育制限	2

### III. 参考資料

#### 1. 奈良県産婦人科（周産期）医療体制図



## 2. 母体搬送連携イメージ

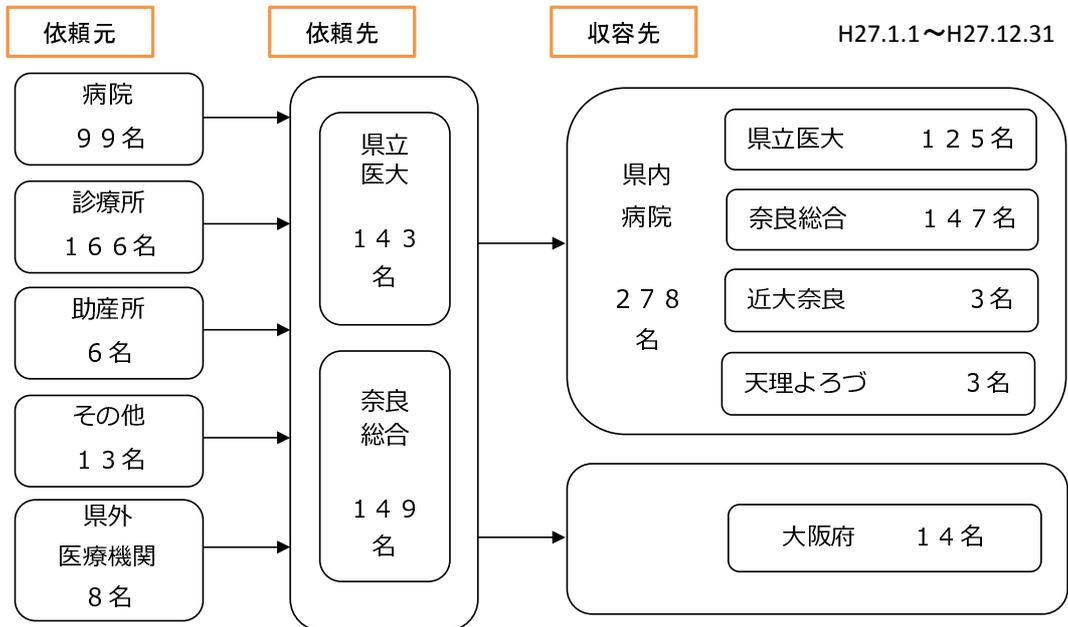


- ① かかりつけ医がまず対応
- ② かかりつけ医がないもしくは対応できない場合には一次輪番医療機関が対応
- ③ かかりつけ医、一次輪番医療機関等地域の医療機関で対応ができない症状の場合は周産期母子医療センターが対応
- ④ 周産期母子医療センターにおいて産科合併症以外の合併症等の重篤な症状の場合、必要に応じて併設する救命救急センターと連携し、対応
- ⑤ 万一母体の県外搬送が必要になった場合、近隣府県の広域搬送調整拠点病院を通じて、早急に県外搬送先を選定し、搬送

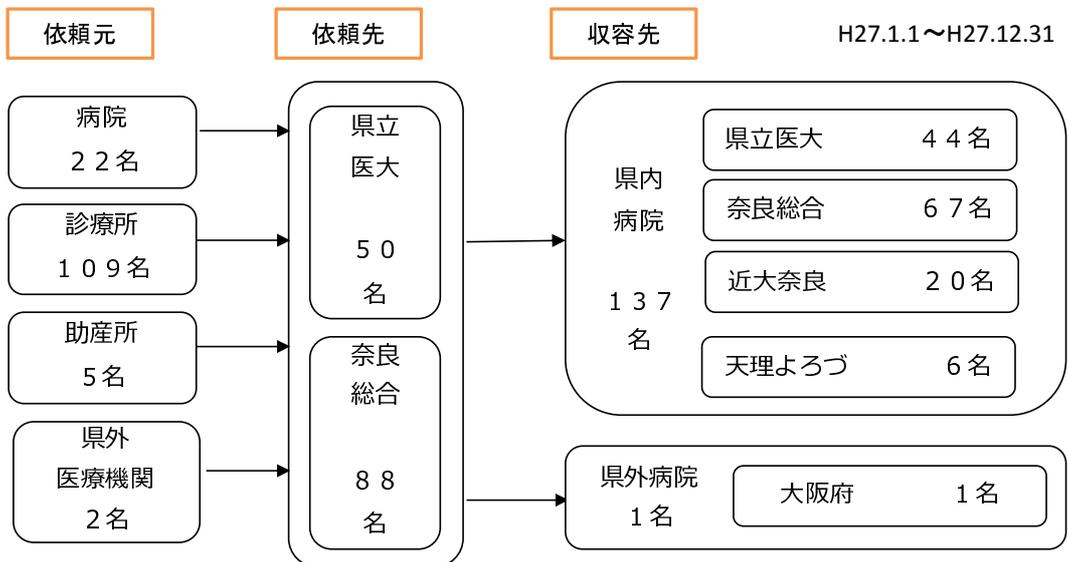
### 3. 母体・新生児搬送状況

奈良県周産期医療情報システムを利用した搬送状況

#### ◆母体搬送



#### ◆新生児搬送



4. 産婦人科一次救急体制参加医療機関

産婦人科一次救急体制参加医療機関一覧

(地区別、アイウエオ順)  
(平成27年12月31日現在)

地域	医療機関名	住所及び電話番号
北和	岡村産婦人科	奈良市西木辻町30 0742-23-3566
	きよ女性クリニック	奈良市石木町50-1 0742-53-0411
	市立奈良病院	奈良市東紀寺町1-50-1 0742-24-1251
	杉江産婦人科	生駒市本町1-11-3 0743-75-0123
	富雄産婦人科	奈良市三松4-878-1 0742-43-0381
	中野産婦人科	奈良市四条大路1-3-57 0742-30-0039
	なんのレディースクリニック	生駒郡斑鳩町興留5-14-8 0745-75-5623
	大和郡山病院	大和郡山市朝日町1-62 0743-53-1111
中南和	赤崎クリニック	桜井市大字谷111 0744-43-2468
	酒本産婦人科	橿原市内膳町4-4-26 0744-25-3389
	桜井病院	桜井市桜井973 0744-43-3541
	SACRAレディースクリニック	橿原市上品寺町528 0744-23-1199
	内藤医院	桜井市桜井996 0744-42-2138

## 5. 産婦人科対応マニュアル

### 産婦人科救急対応マニュアル（抜粋）

#### 1. 一次救急編

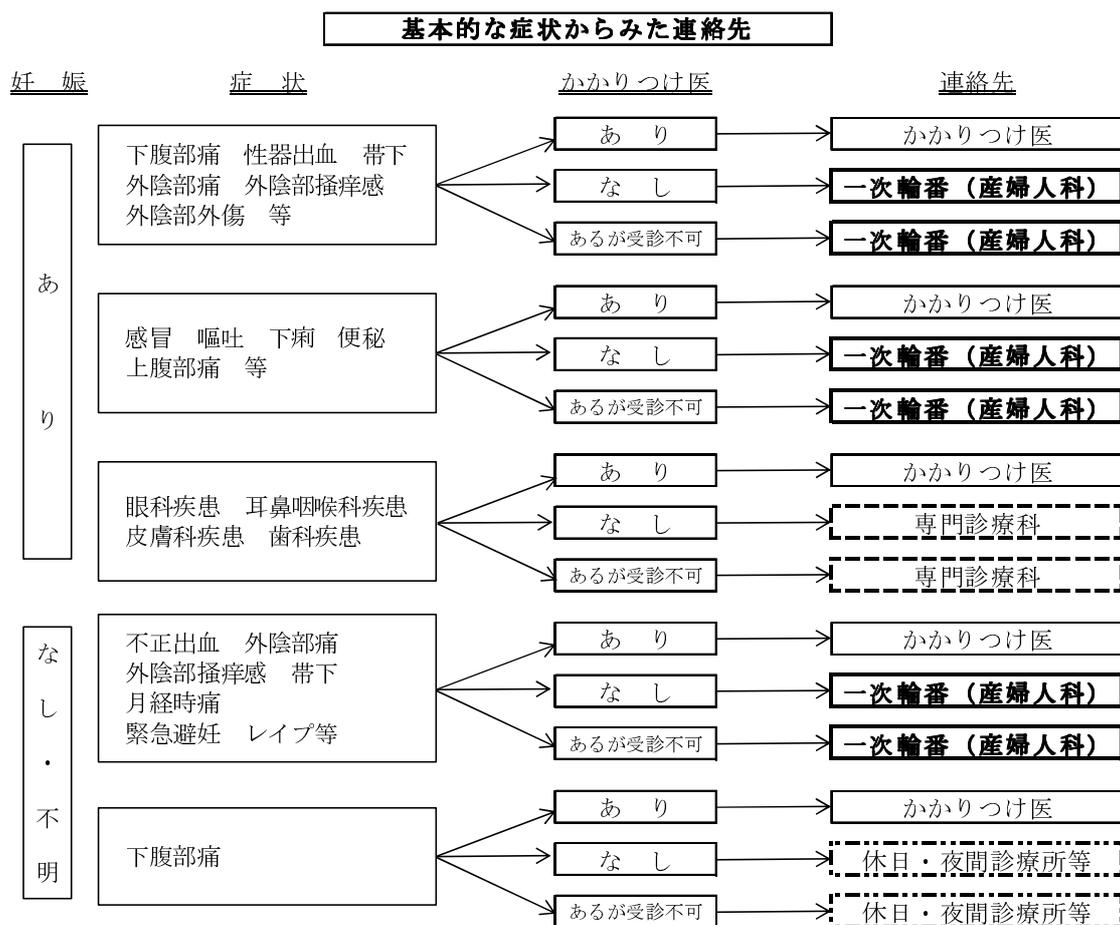
このマニュアルは、休日・夜間等に救急要請や受診要請があった際に、産婦人科の受診が必要か、その他の診療科の受診が必要かの判断をするための、目安とするためのチェックリストとして作成いたしました。

このマニュアルは救急隊が患者と直接の電話対応に使用したり、医事受付担当者や守衛等が休日・夜間等に受付を行なう際に最低限必要な情報を確認し、診療科の判断が出来るように作成しています。

実際は医事受付担当者等が患者との対応を行なう例もありますが、本来患者との電話対応は医師、看護師が行なうことが望ましいのはいままでのため、医事受付担当者等は医師、看護師等との連絡を密に取った上で対応に当たるよう努めてください。

なお、マニュアルの使用前に一般救急として必要な項目の聞き取り等は、別に行なってください。その結果、産婦人科受診が必要と認められた場合にご使用いただきますようお願いいたします。

また、このマニュアルにかかわらず、緊急度が高い際にはそれぞれ関係者の判断により対処いただきますようお願いいたします。



6. 分娩取扱医療機関一覧

平成27年12月31日現在

医療機関名		医療圏	住所
1	奈良県総合医療センター	奈良	631-0846 奈良市平松1丁目30番1号
2	市立奈良病院	奈良	630-8305 奈良市東紀寺町1-50-1
3	高井病院	東和	632-0006 天理市蔵之庄町470-8
4	天理よろづ相談所病院	東和	632-0015 天理市三島町200番地
5	桜井病院	東和	633-0091 桜井市桜井973
6	大和郡山病院	西和	639-1013 大和郡山市朝日町1-62
7	近畿大学医学部奈良病院	西和	630-0227 生駒市乙田町1248番-1
8	生駒市立病院	西和	630-0213 生駒市東生駒1-6-2
9	奈良県西和医療センター	西和	636-0802 生駒郡三郷町三室1丁目14-16
10	県立医科大学附属病院	中和	634-0813 橿原市四条町840
11	大和高田市立病院	中和	635-0094 大和高田市磯野北町1番1号
病院計		11	
12	高山クリニック	奈良	630-8031 奈良市柏木町190-5
13	富雄産婦人科	奈良	631-0074 奈良市三松4丁目878番1
14	平野医院	奈良	631-0821 奈良市西大寺東町2-1-52
15	岡村産婦人科	奈良	630-8325 奈良市西木辻町30番地の10
16	中野産婦人科新大宮	奈良	630-8014 奈良市四条大路1丁目3-57
17	赤崎クリニック	東和	633-0053 桜井市大字谷111
18	久産婦人科	東和	636-0304 磯城郡田原本町十六面23番地の1
19	辻クリニック	東和	636-0300 磯城郡田原本町547
20	なんのレディースクリニック	西和	636-0123 生駒郡斑鳩町興留5丁目14-8
21	杉江産婦人科	西和	630-0257 生駒市元町1丁目11-3
22	林産婦人科王寺	西和	636-0011 北葛城郡王寺町葛下1丁目9番1号
23	林産婦人科登美ヶ丘	西和	630-0115 生駒市鹿畑町55番1
24	酒本産婦人科	中和	634-0804 橿原市内膳町4-4-26
25	藤田産婦人科	中和	639-0251 香芝市逢坂7丁目130番地の1号
26	林産婦人科五位堂	中和	639-0223 香芝市真美ヶ丘1-13-27
27	さくらレディースクリニック	中和	634-0803 橿原市上品寺町528
28	後藤医院	南和	637-0041 五條市本町1-7-23
診療所計		17	
29	青柳助産院	奈良	630-8036 奈良市五条畑1丁目17番10-1号
30	石井助産院	奈良	630-8107 奈良市奈保町5番21号
31	カヌシャガマ高杉助産院	西和	630-0136 生駒市白庭台3丁目15番10
32	芽愛助産院	東和	632-0094 天理市前裁町274-1
33	ふじ助産院	東和	632-0004 天理市樺本町2071-8
34	ひらおか助産院	西和	630-0101 生駒市高山町7747番1
35	助産院カンガルーホーム	西和	636-0003 北葛城郡王寺町久度2丁目12番26号
36	心友助産院	中和	635-0823 北葛城郡広陵町三吉 赤部 260-3
助産所計		8	

県地域医療連携課調べ

7. 奈良県周産期医療協議会委員名簿

## 奈良県周産期医療協議会委員名簿

H28.12.31現在

区 分	役 職	氏 名
医科大学 (総合周産期 母子医療センター)	公立大学法人奈良県立医科大学 産婦人科学教室教授	小林 浩
	公立大学法人奈良県立医科大学 総合周産期母子医療センター教授	西久保 敏也
関係団体	奈良県産婦人科医会長	赤崎 正佳
地域周産期 母子医療センター	奈良県立病院機構 奈良県総合医療センター 周産期母子医療センター長 兼産婦人科部長	喜多 恒和
	奈良県立病院機構 奈良県総合医療センター 新生児集中治療室部長	箕輪 秀樹
病 院	市立奈良病院 産婦人科部長	原田 直哉
	天理よろづ相談所病院 産婦人科部長	藤原 潔
	近畿大学医学部奈良病院 産婦人科教授	大井 豪一
消 防	奈良県消防長会救急部会長 (奈良県広域消防組合消防本部救急部長)	丹治 準治
奈 良 県	医療政策部長	林 修一郎



奈良県周産期医療年報

平成29年（2017年）3月

発行 奈良県周産期医療協議会